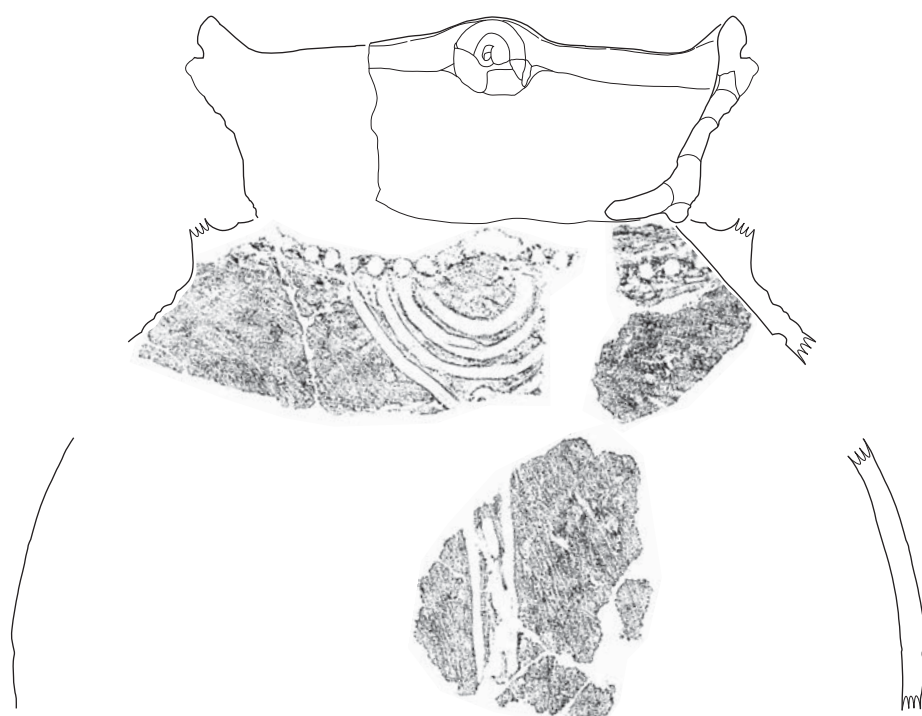


平成 22 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報



2012 年 3 月

国分寺市教育委員会

表紙：八幡前遺跡第3次調査出土 縄文土器（壺形）

裏表紙：武蔵国分寺跡第662次調査出土 土師質土器高台付埴

例 言

1. 本書は東京都国分寺市において平成 22 年度に実施した個人住宅建設等に伴う埋蔵文化財発掘調査および開発事業に伴う確認調査の概要をまとめたものである。なお付編として平成 7 年度から平成 14 年度に行った未報告の小規模調査の記録を掲載した。
2. 発掘調査・整理作業は国分寺市教育委員会が主体者となり、国分寺市遺跡調査会に委託して実施した。発掘調査・整理作業にかかる費用は文化庁および東京都の補助を受けた。
3. 本書の執筆・編集は、国分寺市教育委員会ふるさと文化財課の小野本 敦が行い、同課の依田亮一・上敷領 久・中道 誠・寺前めぐみがこれを助けた。
4. 本書の挿図・表等の作成にはマイクロソフト社「ワード」「エクセル」、アドビ社「イラストレーター」「フォトショップ」「インデザイン」の各ソフトを用いた。
5. 本書のトレース・版下作成作業は小野本の指示の下、国分寺市遺跡調査会の桂 弘美・佐藤 令・佐藤緋佐子・島田智博が行った。
6. 本遺跡の出土遺物、調査記録、データは国分寺市教育委員会が保管している。
7. 本書作成にあたっては下記の方々にご協力、ご教示を賜った。記して感謝の意を表する(敬称略、五十音順)。

井出浩正 伊藤正人 江原 英 大網信良 瀬瀬 茂 武川夏樹 中山真治

凡 例

1. 遺構は遺跡をとおしてほぼ発見順に連続番号を付し下記の遺構記号を冠して表示する。縄文時代の遺構は末尾に J を付して区別する。

SI 竪穴住居 SD 溝 SK 土坑 SX 性格不明遺構・特殊遺構 P 小穴

2. 遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

歴史時代

土器類 PH 土師器 PK 須恵器 PL 土師質土器 PP 緑釉陶器

瓦 類 KD 女瓦

石製品 GJ 支脚

縄文時代

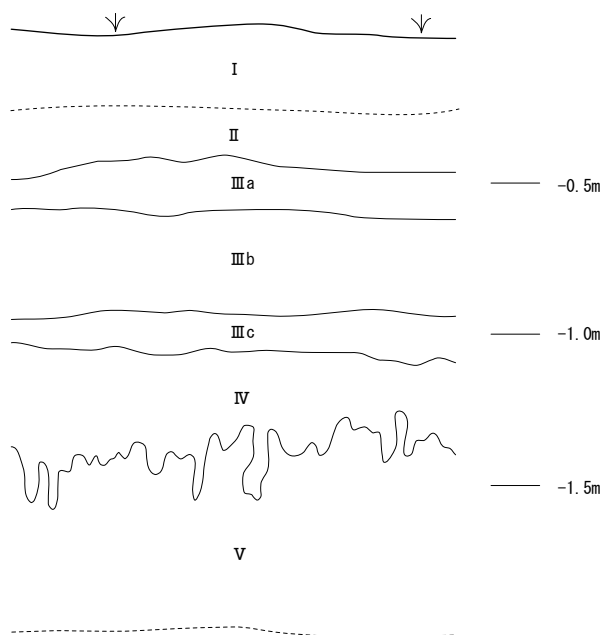
土器類 JC 早期後半 JD 前期 JE 中期前半 JF 中期後半 JG 後期

石 器 AG 打製石斧 AK 叩き石 AL 磨石 AT 剥片 AU 碎片

旧石器時代 FB 石刃 FJ 石核 FL 剥片

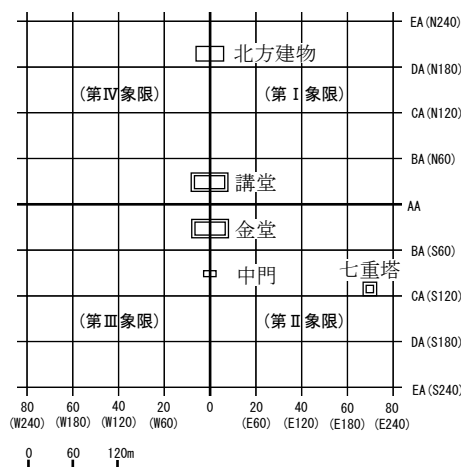
3. 遺構図面は原則として図面上が座標北である。
4. 国分寺市域で用いる層位区分は、表土（Ⅰ層）下の黒色土を2枚に細分し、これをⅡ層・Ⅲ層と呼称している。そのため、黒色土をⅡ層とし、Ⅲ層以下をローム層にあてる一般的な立川ローム層の区分とは呼称にズレが生じている。今回報告する調査区は武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土は下記の通りほぼ共通した層序を示す。

- Ⅰ層** 表土および耕作土。
- Ⅱ層** 黒褐色土。粒子が粗い。しまりやや弱い。粘性弱い。歴史時代の遺構内の堆積土に似る。
- Ⅲa層** 暗褐色土。粒子はやや粗い。粘性やや弱い。Ⅱ層・Ⅲb層との境は漸移的。
- Ⅲb層** 暗褐色土。Ⅲa層より明度高い。本層の上面で歴史時代の遺構が検出しやすくなる。縄文時代の遺物を包含する。
- Ⅲc層** 茶褐色土。ローム漸移層。本層の上面で縄文時代の遺構が検出しやすくなる。上部に縄文時代の遺物を包含する。
- Ⅳ層** 暗黄褐色ローム。ソフトローム。
- Ⅴ層** 黄褐色ローム。ハードローム。



国分寺市内の平均的な層序

5. 武蔵国分寺跡では、僧尼寺の広大な範囲を統一して調査するため、僧寺の伽藍中心軸線を基準に、金堂心の北26.276mの中軸線上の点（コンクリート埋設）を座標原点とする局地座標系を用いている。僧寺中軸線は、真北から7°07'01"、磁北から0°37'01"それぞれ西偏する。本文中および遺構配置図表示（グリッド）の数字は、発掘基準線中心点からの距離を表す。最小の発掘区は3×3mとし、その南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット2文字で表す。1文字目は原点をA



武蔵国分寺跡の調査基準線

として 60m 毎に以下 B・C・D・・・とふり，2 文字目はその内を 3m 毎に 20 区に分け A～T までふる。南北基準線は数字で表す。原点を 0 とし，以下東西とも 3m 毎に 1・2・3・・・とふる。このようにして発掘区を呼称すると，中軸線 AA と 0 に接する区を除き，4 つの象限に同一名称があることになるので，象限を I～IV に区別している。本報告では中心点からの距離を N・E・W・S で表し，併用する。

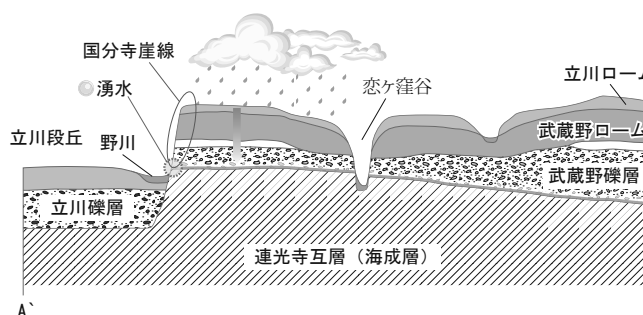
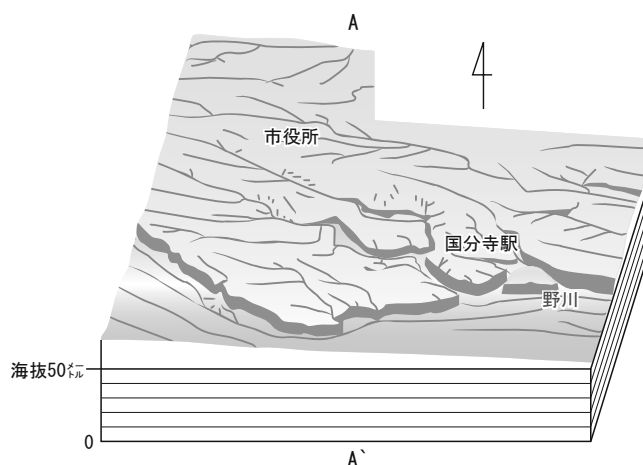
6. 武蔵国分寺跡以外の遺跡の座標は世界測地系第 9 系を用いる。ただし，付編については調査当時の日本測地系のままととなっている。

目 次

第 1 章	埋蔵文化財行政のあらまし	4
第 2 章	平成 22 年度に実施した発掘調査	10
第 3 章	小結	39
付 編	平成 7 年度～ 14 年度に実施した発掘調査	42

第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に南北に分けられています。国分寺崖線は武蔵野台地を古多摩川が浸食することで形成された崖で、崖上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼称しています。現在、国分寺崖線沿いには付近の湧水を集めた野川が東流していますが、立川段丘面が形成期された約4～5万年前には、現在では溺れ谷となっている本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷などのいくつもの開削谷を水が流れていました。武蔵野台地はこれらの谷によって本多面・恋ヶ窪面・内藤面に分かれています。



国分寺市の地形模式図

こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、市内には人類が日本列島に住

み始めた旧石器時代以来の生活痕跡（埋蔵文化財）が多数残されています。そして、奈良時代には、市名の由来ともなった武蔵国分寺が、国分寺崖線を背景にして建立されました。

先人がこの土地に残した埋蔵文化財を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立てていくことは大切なことです。「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、「埋蔵文化財を包蔵する土地＝遺跡」を的確に把握し、周知の徹底に努めるよう求めています（法第95条第1項）。国分寺市内では、現在58か所の遺跡が確認されています。また、武蔵国分寺跡の中核部と東山道武蔵路の一部については、国の史跡に指定されています。

遺跡の範囲内で土木工事等を行う場合、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づいて「届出」（事業者が公的機関の場合は「通知」）を行う必要があります（法第93条第1項・94条第1項）。届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に進達され、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置が都から指示されます。

国分寺市内では地表からおよそ40cm～100cm下に遺跡が眠っており、工事がこれより深い



武蔵国分寺跡発掘現場見学会（平成23年3月5日）



調査成果の概要版

場合は遺跡の保存に影響が及ぶ可能性があります。影響が軽微な場合には市職員の立会いのもとに工事を行います（立会調査）。工事によって遺跡が壊されると判断される場合、事業者と協議のうえ、事前に記録保存を目的とした発掘調査を行うことになります。

個人住宅の建設に伴う調査や、本調査の前に行う予備的な調査（試掘・確認調査）は、公費によって行われます。国分寺市では、発掘調査の現地作業や出土品の整理作業を国分寺市遺跡調査会に委託して行っています。この年報は、平成22年度に行ったこれらの発掘調査の成果をまとめ、地域の歴史の解明の一助とするために刊行するものです。

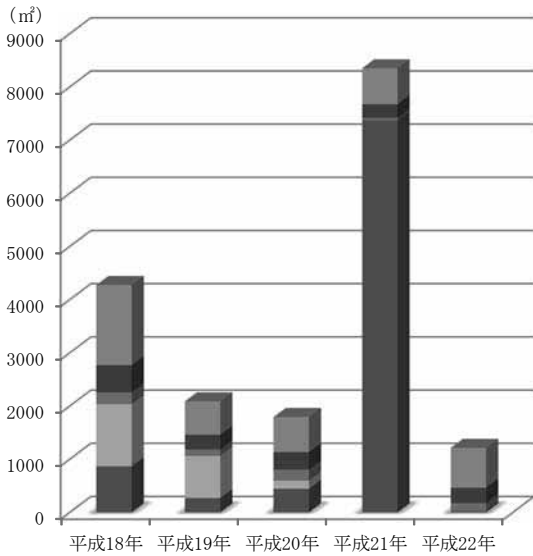
なお、国史跡の指定地内で現状を変更するような行為をする場合については、文化庁長官の許可を受けなければなりません（法第125条）。国分寺市では現在、法第125条の申請に基づき、武蔵国分寺跡の規模や構造を解明し歴史公園として整備するための事前遺構確認調査を行っています。調査成果の概要は冊子として刊行するほか（市内図書館・オープナー等で閲覧することができます）、現地にて発掘現場見学会を開催し、毎年多くの方にご覧いただいています。

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年		指示内容内訳	件数
93条	155	163	141	152	151	-	事前調査（本調査）	6
94条	40	22	27	20	38		確認調査	13
125条	4	12	5	5	4		立会調査	170

第1表 文化財保護法に基づく届出（通知）件数の推移（左）と指示内容（右）

近年の埋蔵文化財発掘の届出（通知）はおおむね170件前後で推移しています。平成22年度における史跡の現状変更許可申請（法第125条）はいずれも武蔵国分寺跡の学術調査を目的として国分寺市教育委員会が申請したものです。なお、平成22年度における発掘調査の指示は19件ありましたが、前年度末の指示に基づいて行った調査が2件、本年度末に指示が出て次年度に行った調査が1件あったため、調査件数は20件となっています。

第1章 埋蔵文化財行政のあらまし



平成21年度は①の増加によって調査面積が急増しましたが、全体的には減少方向で推移しています。本書には平成22年度の③・④の調査成果をまとめています。
 なお、④によって遺跡の存在が明らかになった場合は、①または②の本発掘調査に移行することとなります。

			平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	
土木工事等に 伴う調査	事業者負担による 調査	①民間企業	867.74	270.73	445.14	7373.63	28.46	
		②公共機関	1169.1	792.26	153.22	0	0	
	補助金による調査	③個人住宅等	220.15	120.82	208.23	45.59	146.35	
		④開発に先立つ確認調査	512.61	276.28	327.63	254.42	289.68	
学術的調査			⑤武蔵国分寺跡遺構確認調査	1504.92	628.56	659.04	675.6	749.39

第2表 国分寺市内における発掘調査面積の推移

第3表 平成22年度埋蔵文化財発掘届（通知）一覧

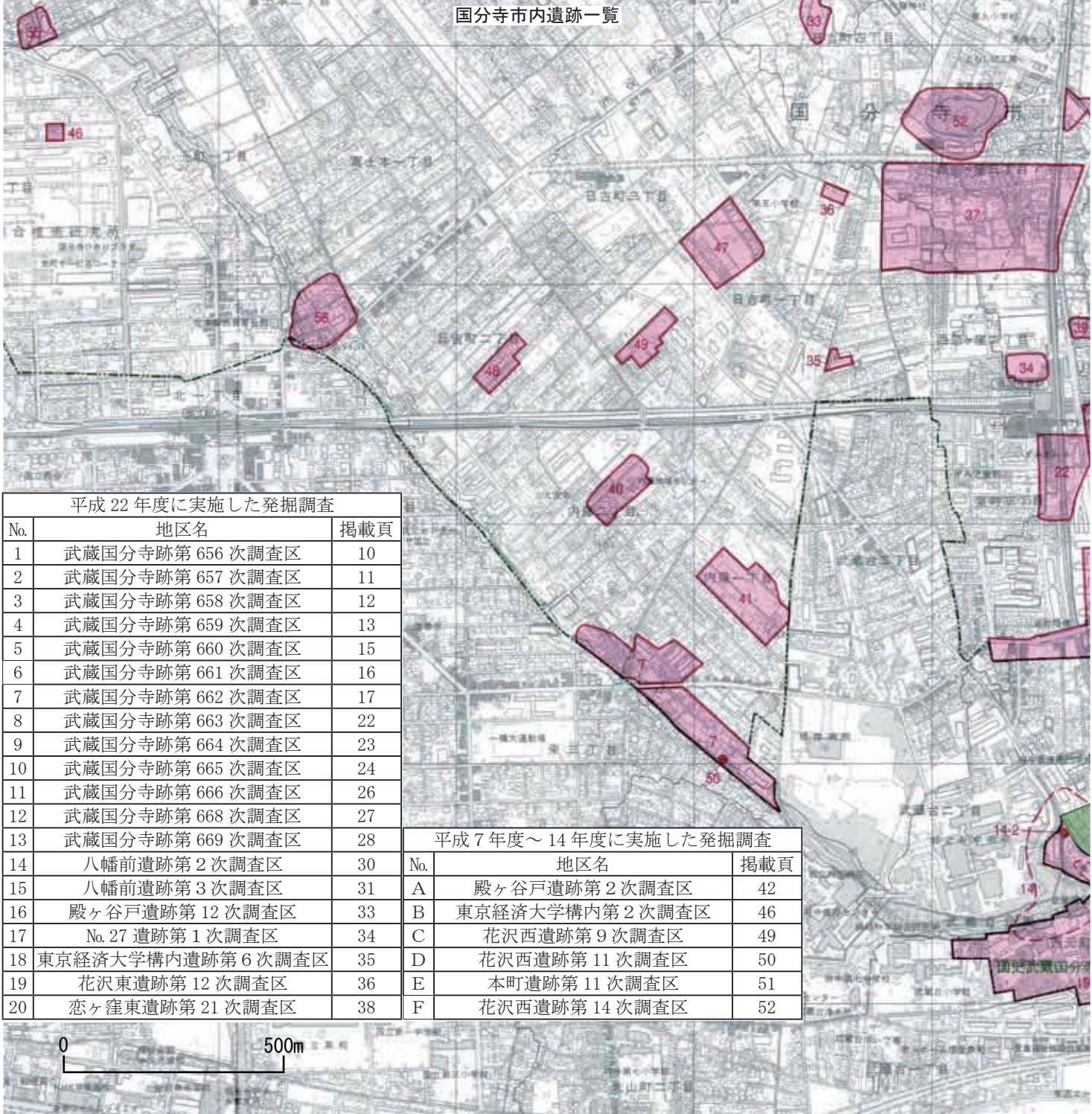
No.	提出日	法	申請地番	申請工事内容	指示内容	No.	提出日	法	申請地番	申請工事内容	指示内容
1	H22.4.1	93条	日吉町1-31	水道	立会調査	35	H22.6.15	94条	本町4-2864-17	下水道	立会調査
2	H22.4.1	93条	西元町3-2-8	ガス	立会調査	36	H22.6.15	93条	東元町3-30-17	ガス	立会調査
3	H22.4.1	93条	東元町4-18	電気等	立会調査	37	H22.6.17	93条	東恋ヶ窪1-280	電気等	立会調査
4	H22.4.1	93条	西恋ヶ窪1-22	ガス	立会調査	38	H22.6.23	93条	西元町3-5	ガス	立会調査
5	H22.4.6	93条	東元町2-485 他	宅地造成	確認調査	39	H22.6.24	93条	西元町3-4-20	水道	立会調査
6	H22.4.7	93条	西元町4-2297-16	個人住宅	立会調査	40	H22.6.25	94条	東元町4-1851-1	下水道	立会調査
7	H22.4.8	93条	日吉町1-43	電気等	立会調査	41	H22.6.28	94条	西元町3-11~3-2	道路	立会調査
8	H22.4.14	93条	東元町4-1964-2(4-9)	個人住宅、水道、電気	事前調査	42	H22.6.30	93条	本町1-7	電気等	立会調査
9	H22.4.15	93条	東元町4-1851-1,1852-1	集合住宅	確認調査	43	H22.6.30	93条	西元町3-10	電気等	立会調査
10	H22.4.21	93条	東元町3-1344(3-1-1)	集合住宅	確認調査	44	H22.6.30	94条	東元町3-14	水道	立会調査
11	H22.4.21	93条	西元町3-2	ガス	立会調査	45	H22.6.30	94条	南町1-9~1-12	電柱	立会調査
12	H22.4.21	93条	南町3-1-9	ガス	立会調査	46	H22.7.9	93条	西元町2-11-41	社員寮	確認調査
13	H22.4.21	93条	南町2-14	ガス	立会調査	47	H22.7.9	94条	西元町2-3-11	電柱	立会調査
14	H22.4.21	93条	南町3-23~25	ガス	立会調査	48	H22.7.9	94条	西元町3-2056-31	下水道	立会調査
15	H22.4.22	93条	本町4-25-7	集合住宅	確認調査	49	H22.7.9	93条	西元町3-1532-1外	個人住宅	立会調査
16	H22.4.26	93条	光町1-1-7	建売住宅	立会調査	50	H22.7.13	93条	南町3-26-33	ガス	立会調査
17	H22.5.10	94条	南町1地内~本町1地内	道路拡幅に伴う擁壁工事	立会調査	51	H22.7.13	93条	西元町3-12-9	個人住宅	立会調査
18	H22.5.10	94条	本町1地内	道路拡幅に伴う擁壁工事	立会調査	52	H22.7.16	93条	東元町2-502外	宅地造成	立会調査
19	H22.5.10	93条	内藤2-26-11外	宅地造成	立会調査	53	H22.7.16	93条	東元町4-4	ガス	立会調査
20	H22.5.12	93条	西元町3-2056-34	個人住宅	事前調査	54	H22.7.16	93条	東元町3-16-6	ガス	立会調査
21	H22.5.17	93条	南町1-7-34	学校建設	確認調査	55	H22.7.20	94条	西元町2-2544-39	下水道	立会調査
22	H22.5.17	93条	南町2-16	公園管理	立会調査	56	H22.7.20	93条	西元町3-16-12	個人住宅	立会調査
23	H22.5.20	93条	東元町4-1964-3	個人住宅	事前調査	57	H22.7.21	94条	西恋ヶ窪1-13-11	下水道	立会調査
24	H22.5.20	93条	東元町3-16-6	上下水道	立会調査	58	H22.7.21	93条	泉町2-13	水道	立会調査
25	H22.5.24	93条	東元町3-16-6	建売住宅	立会調査	59	H22.7.21	93条	本町4-8-8	ガス	立会調査
26	H22.5.24	93条	日吉町1-31	電気等	立会調査	60	H22.7.26	93条	本町4-15	電気等	立会調査
27	H22.5.24	93条	東元町4-2782-18(3-26-3)	集合住宅・個人旧宅	立会調査	61	H22.7.26	93条	本町4-12	電気等	立会調査
28	H22.5.24	93条	東元町3-19	電気等	立会調査	62	H22.7.26	93条	西恋ヶ窪1-26-3	その他開発	立会調査
29	H22.6.4	93条	西元町2-16	電気等	立会調査	63	H22.7.27	93条	泉町1-1-18	個人住宅	立会調査
30	H22.6.4	93条	南町3-2681-31,52,53	集合住宅	立会調査	64	H22.7.28	93条	西元町2-1666-1外	保育所	立会調査
31	H22.6.7	93条	西元町1-2448-1,2448-18	仮設モデルルーム	確認調査	65	H22.7.30	93条	泉町1-2423-1	分譲住宅	立会調査
32	H22.6.7	93条	本町4-2874-1	個人住宅	立会調査	66	H22.8.2	93条	泉町1-20-20	個人住宅	立会調査
33	H22.6.11	93条	東恋ヶ窪1-235	電気等	立会調査	67	H22.8.3	93条	西元町3-4	個人住宅	立会調査
34	H22.6.15	94条	東元町4-1854-4	下水道	立会調査	68	H22.8.3	94条	西恋ヶ窪1-24-35	電柱	立会調査

第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

No.	提出日	法	申請地番	申請工事内容	指示内容	No.	提出日	法	申請地番	申請工事内容	指示内容
69	H22.8.3	93条	東元町4-1699-56	個人住宅	立会調査	130	H22.11.19	94条	東元町3-21-35	電柱	立会調査
70	H22.8.4	93条	内藤1-1-17	集合住宅	立会調査	131	H22.11.24	93条	東元町4-14-38	ガス	立会調査
71	H22.8.4	93条	東元町4-14-38	個人住宅	立会調査	132	H22.11.24	94条	西元町3-27-15	下水道	立会調査
72	H22.8.5	94条	泉町1-8	個人住宅	事前調査	133	H22.11.24	93条	西恋ヶ窪1-26-地	ガス	立会調査
73	H22.8.5	93条	泉町1-8-13	個人住宅	事前調査	134	H22.11.24	93条	西恋ヶ窪3-11-5	個人住宅	立会調査
74	H22.8.5	94条	東元町1-14先~南町1-14先	道路舗装	立会調査	135	H22.11.26	93条	東元町2-17-地	ガス	立会調査
75	H22.8.9	93条	東元町3-1441-2	建売住宅	立会調査	136	H22.11.27	93条	東元町3-14-8	水道	立会調査
76	H22.8.11	94条	南町3-24先~南町3-21先	道路舗装	立会調査	137	H22.11.30	93条	東元町2	分譲住宅	立会調査
77	H22.8.17	93条	南町2-281外	個人住宅	事前調査	138	H22.12.1	93条	西元町3-4-16	個人住宅	立会調査
78	H22.8.17	94条	東元町4-18先	水道	立会調査	139	H22.12.3	93条	内藤1-1-9	ガス	立会調査
79	H22.8.20	93条	東元町3-20先	電気等	立会調査	140	H22.12.3	93条	本町2-3-6	ガス	立会調査
80	H22.8.23	94条	西元町4-2297-16	下水道	立会調査	141	H22.12.3	93条	西元町2-18-1	個人住宅	立会調査
81	H22.8.23	94条	西元町3-2056-18	下水道	立会調査	142	H22.12.3	93条	西元町1-13-2	水道	立会調査
82	H22.8.23	93条	内藤1-20	水道	立会調査	143	H22.12.3	93条	東元町2-18-29	ガス	立会調査
83	H22.8.27	93条	泉町1-10-7	ガス	立会調査	144	H22.12.10	93条	南町2-17-	電柱	立会調査
84	H22.8.27	94条	西元町1-1	下水道	立会調査	145	H22.12.10	93条	東元町4-20-	電柱	立会調査
85	H22.9.1	93条	西元町4-7-14	ガス	立会調査	146	H22.12.21	93条	東元町2-18-地先	電柱	立会調査
86	H22.9.3	94条	東元町4-1699-3	下水道	立会調査	147	H22.12.27	93条	内藤2-26-46~53	分譲住宅	立会調査
87	H22.9.3	93条	西元町3-4-16	水道	立会調査	148	H23.1.6	93条	東元町4-2-23	ガス	立会調査
88	H22.9.3	93条	西元町1-1565-1外	個人住宅	立会調査	149	H23.1.11	93条	南町3-29-19	個人住宅	立会調査
89	H22.9.7	93条	泉町2-102-10	集合住宅	立会調査	150	H23.1.17	93条	泉町1-1-18	ガス	立会調査
90	H22.9.8	93条	西元町1-1	水道	立会調査	151	H23.1.19	94条	東元町2-17-地先	電話線	立会調査
91	H22.9.8	93条	西元町2-9	電気等	立会調査	152	H23.1.25	93条	泉町1-8-13	ガス	立会調査
92	H22.9.10	93条	光町1-1-7	個人住宅	立会調査	153	H23.1.25	93条	泉町1-2419-5	上下水道	立会調査
93	H22.9.13	93条	西恋ヶ窪3-2-73	水道	立会調査	154	H23.1.31	93条	東元町3-27	水道	立会調査
94	H22.9.21	94条	内藤1地内~東戸倉2地内	道路	確認調査	155	H23.2.2	94条	南町2-7-3他	基準点設置	立会調査
95	H22.9.22	93条	西元町3-2056-33	個人住宅	立会調査	156	H23.2.2	94条	東元町3-25-4	基準点設置	立会調査
96	H22.9.27	93条	泉町3-2594-1	立会調査	立会調査	157	H23.2.2	93条	泉町1-19先	ガス	立会調査
97	H22.9.27	93条	東元町4-14	ガス	立会調査	158	H23.2.4	93条	東元町2-11-43	電柱	立会調査
98	H22.9.30	93条	西元町4-7-13	分譲住宅	確認調査	159	H23.2.4	93条	南町2-17-10	電柱	立会調査
99	H22.9.30	93条	東元町4-1726-3・4の1部	集合住宅	立会調査	160	H23.2.7	94条	西元町3-5-18他	電話柱	立会調査
100	H22.9.30	93条	東元町4-1726-3・4の1部	個人住宅	立会調査	161	H23.2.7	94条	東元町4-12-17	電話柱	立会調査
101	H22.9.30	94条	本町4-25-7	下水道	立会調査	162	H23.2.10	93条	内藤2-26-18	集合住宅	立会調査
102	H22.10.4	93条	西恋ヶ窪1-8	下水道	立会調査	163	H23.2.10	93条	東元町2-502-2	分譲住宅	立会調査
103	H22.10.5	93条	西恋ヶ窪3-13-61	個人住宅	立会調査	164	H23.2.14	93条	東元町3-27	ガス	立会調査
104	H22.10.8	93条	本町4-25-7	電気等	立会調査	165	H23.2.15	93条	泉町1-8	ガス	立会調査
105	H22.10.8	93条	東元町3-9	ガス	立会調査	166	H23.2.15	94条	西恋ヶ窪3-16-36	下水道(道路上)	立会調査
106	H22.10.8	93条	東元町3-10	ガス	立会調査	167	H23.2.16	94条	西恋ヶ窪3-16-36	下水道(公園内)	立会調査
107	H22.10.12	93条	富士本1-23-14	個人住宅	立会調査	168	H23.2.22	94条	西恋ヶ窪1-47先	道路補修及び電柱撤去	立会調査
108	H22.10.13	93条	東元町2-18	集合住宅	立会調査	169	H23.2.25	93条	泉町1-18-19	ガス	立会調査
109	H22.10.21	93条	南町3-22	立会調査	立会調査	170	H23.2.28	93条	東元町3-16-6	個人住宅	立会調査
110	H22.10.21	93条	本町2-17-13	ガス	立会調査	171	H23.3.1	93条	南町2-1-14	ガス	立会調査
111	H22.10.22	93条	東元町3-24-4	集合住宅	確認調査	172	H23.3.3	94条	西元町1-14	街路灯	立会調査
112	H22.10.22	93条	東元町3-21	ガス	立会調査	173	H23.3.7	93条	東恋ヶ窪1-280	電柱	立会調査
113	H22.10.25	93条	東元町2-18	ガス	立会調査	174	H23.3.7	93条	東元町1-28	電柱	立会調査
114	H22.10.25	93条	西元町3-4	水道	立会調査	175	H23.3.7	93条	南町1-9-2	電柱	立会調査
115	H22.10.28	93条	泉町1-2-5	ガス	立会調査	176	H23.3.8	93条	西元町2-18-1	ガス	立会調査
116	H22.10.28	93条	西元町3-27	ガス	立会調査	177	H23.3.10	93条	東元町3-17-12	ガス	立会調査
117	H22.10.29	93条	西恋ヶ窪3-2	ガス	立会調査	178	H23.3.10	94条	南町2-3先	漏水	立会調査
118	H22.10.29	93条	本町2-9	ガス	立会調査	179	H23.3.11	93条	西元町3-1889-22	分譲住宅	立会調査
119	H22.11.1	93条	西元町2-16	その他開発	確認調査	180	H23.3.22	93条	泉町1-8-8	集合住宅	確認調査
120	H22.11.8	93条	東元町4-2-23	水道	立会調査	181	H23.3.22	93条	西元町4-7-13	ガス	立会調査
121	H22.11.11	93条	東元町3-14-18	分譲住宅	確認調査	182	H23.3.22	93条	東元町3-24-4	水道	立会調査
122	H22.11.12	93条	富士本1-23	ガス	立会調査	183	H23.3.22	93条	本町2-4-7	ガス	立会調査
123	H22.11.12	93条	本町4-18	ガス	立会調査	184	H23.3.24	93条	東元町3-16-7	分譲住宅	立会調査
124	H22.11.19	93条	東元町2-18	電柱	立会調査	185	H23.3.24	93条	西元町2-15-36	個人住宅	立会調査
125	H22.11.19	94条	本町2-4-3	電柱	立会調査	186	H23.3.25	93条	東元町3-1-1	水道	立会調査
126	H22.11.19	93条	本町4-25	ガス	立会調査	187	H23.3.28	93条	西恋ヶ窪1-28-15	下水道	立会調査
127	H22.11.19	93条	富士本1-23-14	ガス	立会調査	188	H23.3.30	93条	東元町3-24-4	ガス	立会調査
128	H22.11.19	93条	南町3-26-3	ガス	立会調査	189	H23.3.30	94条	泉町1-8-5先	電柱	立会調査
129	H22.11.19	94条	西元町3-6-16他	電柱	立会調査						

No.	名称	遺跡の種別	遺跡の時代					No.	名称	遺跡の種別	遺跡の時代				
			旧石器	縄文	古代	中世	近世				旧石器	縄文	古代	中世	近世
1	熊ノ郷遺跡	集落跡	○	○			29	—	散布地	○	○	○			
2	恋ヶ窪遺跡	集落跡	○	○			30	—	散布地	○	○	○			
3	恋ヶ窪南遺跡	集落跡	○	○			32	長谷戸遺跡	散布地						
5	羽根沢遺跡	集落跡		○			33	—	散布地	○	○	○			
6	—	散布地		○			34	—	散布地	○	○	○			
7	多摩蘭坂遺跡	集落跡	○	○	○		35	—	散布地	○	○	○			
8	花沢西遺跡	集落跡	○	○			36	—	散布地	○	○	○			
9	日影山遺跡	集落跡	○	○	○		37	—	散布地	○	○	○			
10	武蔵国分寺跡(僧尼寺)	寺院跡			○		38	—	散布地	○	○	○			
11	多喜窪遺跡	集落跡		○			39	—	散布地	○	○	○			
12	伝祥応寺跡	寺院跡				○	40	—	散布地	○	○	○			
13	—	塚				○	41	—	散布地	○	○	○			
14	多喜窪横穴墓群	横穴墓			○		46	—	散布地			○			
18	八幡前遺跡	集落跡		○			47	—	散布地		○	○			
19	武蔵国分寺跡	集落跡・道路跡	○	○	○	○	48	—	散布地		○	○			
20	殿ヶ谷戸北遺跡	集落跡	○	○			49	—	散布地			○			
21	殿ヶ谷戸遺跡	集落跡	○	○			50	内藤新田横穴墓	横穴墓			○			
22	恋ヶ窪廢寺跡	寺院跡		○	○	○	52	—	散布地	○	○	○			
23	—	散布地		○	○		53	東京経済大学構内遺跡	散布地			○			
24	—	散布地		○	○		54	花沢東遺跡	集落跡	○	○	○			
25	—	散布地		○	○		55	光町遺跡	散布地	○	○	○			
26	—	散布地		○	○		56	—	散布地	○	○	○			
27	—	散布地		○	○		57	恋ヶ窪東遺跡	集落跡			○			
28	本町(国分寺村石器時代)遺跡	集落跡	○	○	○		58	東山道武蔵路	道路跡			○			

国分寺市内遺跡一覧



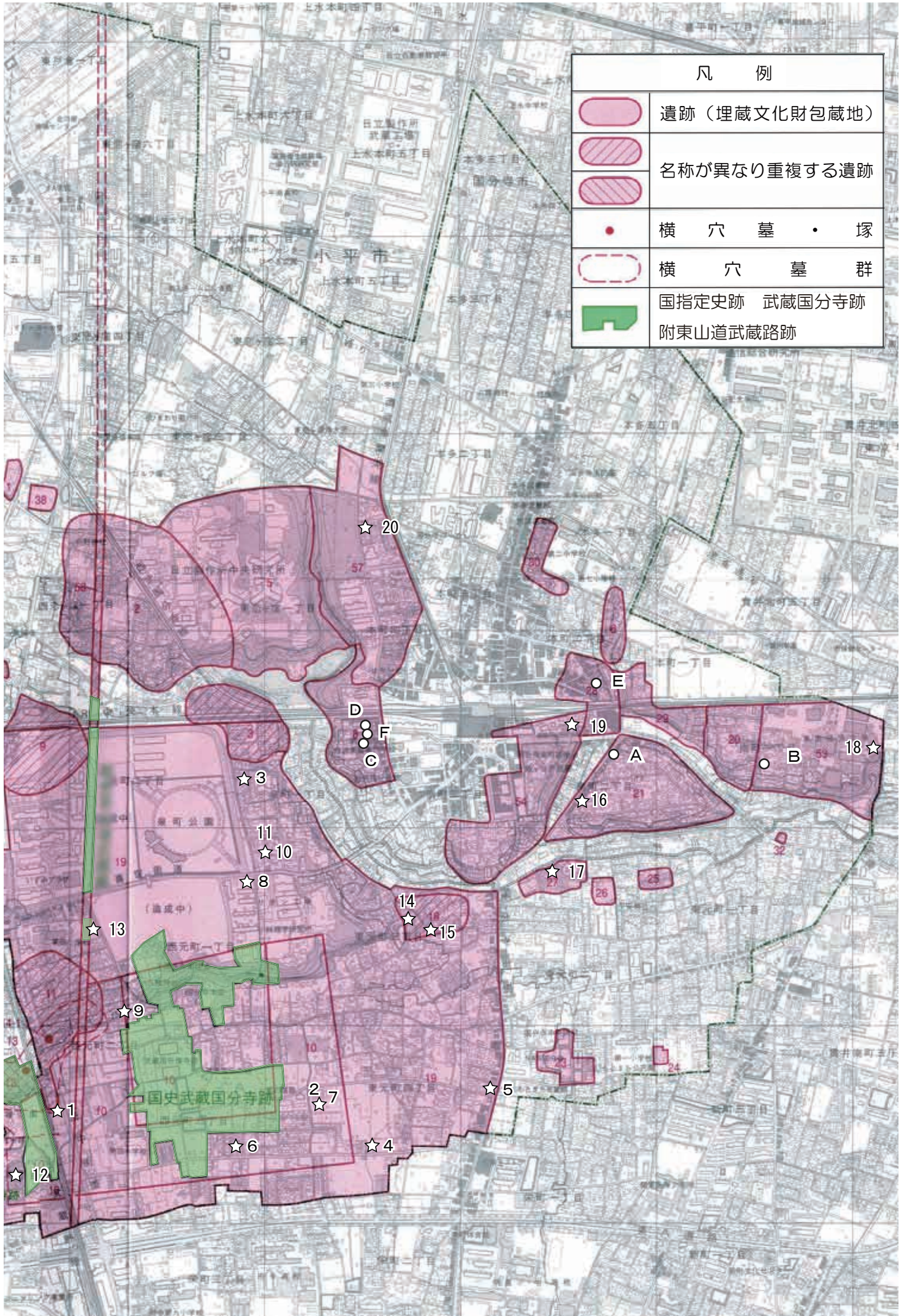
平成 22 年度に実施した発掘調査







No.	地区名	掲載頁
1	武蔵国分寺跡第 656 次調査区	10
2	武蔵国分寺跡第 657 次調査区	11
3	武蔵国分寺跡第 658 次調査区	12
4	武蔵国分寺跡第 659 次調査区	13
5	武蔵国分寺跡第 660 次調査区	15
6	武蔵国分寺跡第 661 次調査区	16
7	武蔵国分寺跡第 662 次調査区	17
8	武蔵国分寺跡第 663 次調査区	22
9	武蔵国分寺跡第 664 次調査区	23
10	武蔵国分寺跡第 665 次調査区	24
11	武蔵国分寺跡第 666 次調査区	26
12	武蔵国分寺跡第 668 次調査区	27
13	武蔵国分寺跡第 669 次調査区	28
14	八幡前遺跡第 2 次調査区	30
15	八幡前遺跡第 3 次調査区	31
16	殿ヶ谷戸遺跡第 12 次調査区	33
17	No. 27 遺跡第 1 次調査区	34
18	東京経済大学構内遺跡第 6 次調査区	35
19	花沢東遺跡第 12 次調査区	36
20	恋ヶ窪東遺跡第 21 次調査区	38

平成 7 年度～ 14 年度に実施した発掘調査

No.	地区名	掲載頁
A	殿ヶ谷戸遺跡第 2 次調査区	42
B	東京経済大学構内第 2 次調査区	46
C	花沢西遺跡第 9 次調査区	49
D	花沢西遺跡第 11 次調査区	50
E	本町遺跡第 11 次調査区	51
F	花沢西遺跡第 14 次調査区	52

0 500m



凡 例	
	遺跡（埋蔵文化財包蔵地）
	名称が異なり重複する遺跡
	
	横 穴 墓 ・ 塚
	横 穴 墓 群
	国指定史跡 武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡

第2章 平成22年度に行った発掘調査

1. 武蔵国分寺跡第656次調査

所在地	国分寺市西元町2-9-13		
調査原因	事務所建設に伴う確認調査		
期間	4月19日・20日(2日間)		
調査面積	10.12 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区は武蔵国分僧寺と尼寺の中間地点，立川段丘上に立地する。調査区を設定した3か所はいずれも工事予定掘削深度まですべて攪乱が及んでおり，遺構・遺物は検出されなかった。



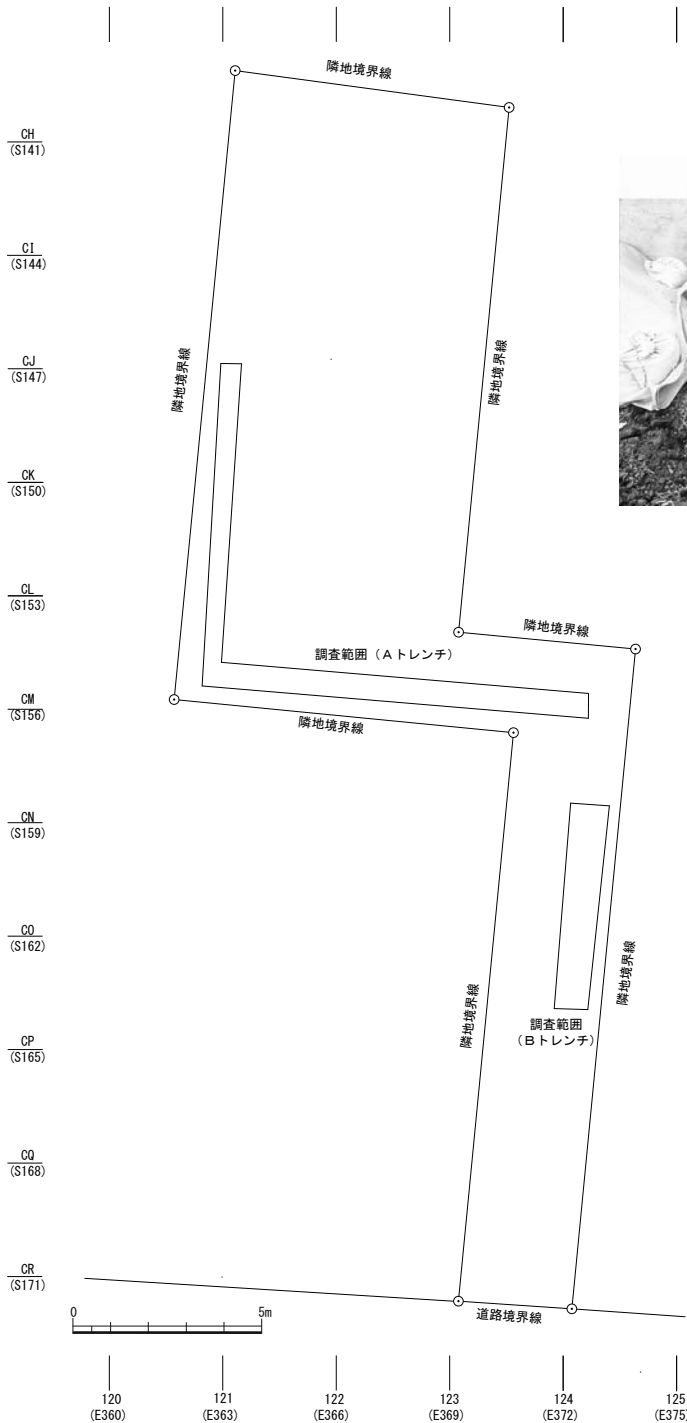
第656次調査区全体図

2. 武蔵国分寺跡第657次調査

所在地	国分寺市東元町4-9		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	4月26日から28日(3日間)		
調査面積	21.75 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区は僧寺寺院地内の南東、立川段丘上に立地する。調査区内には、奈良・平安時代の遺構面は良好に残存していたものの、遺構は検出されなかった。遺物は、土器片・瓦片が少量出土した。



Aトレンチ南側(東から)



Bトレンチ全景(南から)

第657次調査区全体図

3. 武蔵国分寺跡第658次調査

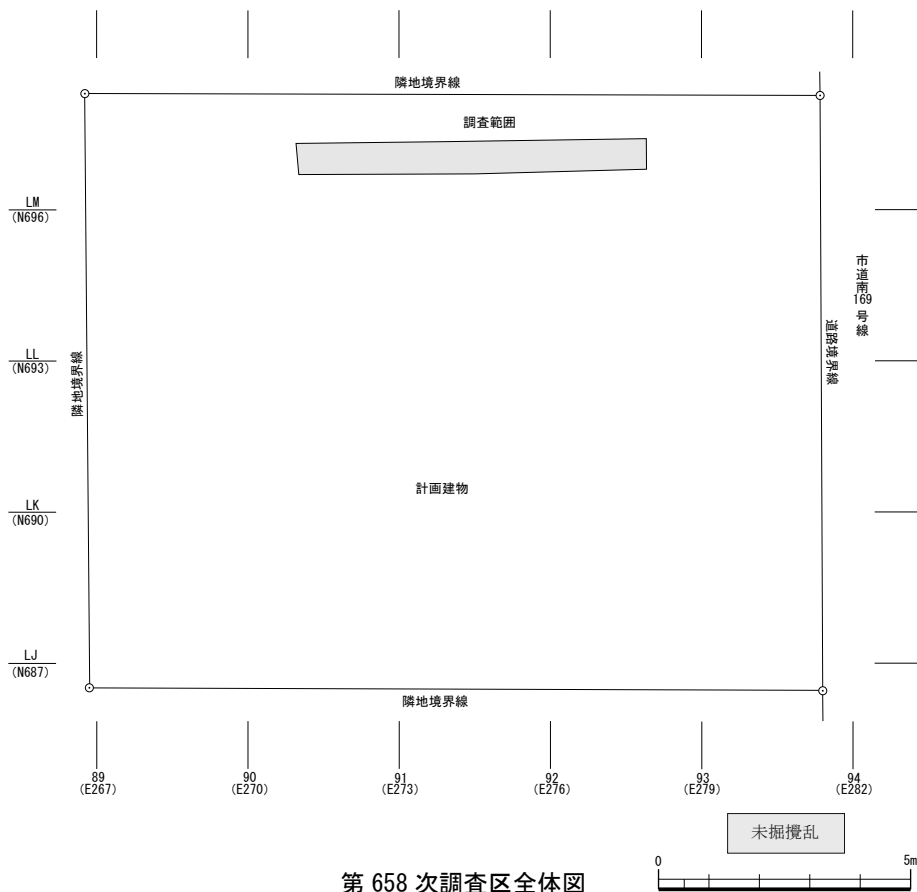
所在地	国分寺市泉町1-10-17		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	5月6日(1日間)		
調査面積	6.24 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区は僧寺寺院地外の北東、武蔵野段丘上に立地する。調査区には、工事の予定掘削深度である現地表面から80cm程度まで盛土されており、遺構確認面にまで到達しなかった。調査地周辺は現状でも北へ向かって緩傾斜しているが、以前はこの傾斜がより急峻であり、北側の恋ヶ窪南遺跡との間に深い谷を形成していたと考えられる。



調査区全景（東から）



第658次調査区全体図

4. 武蔵国分寺跡第659次調査

所在地	国分寺市東元町4-1851-1, 1852-1		
調査原因	集合住宅建設に伴う確認調査		
期間	5月10日から18日(6日間)		
調査面積	32.56㎡	遺物箱数	1箱
検出遺構	SD68溝		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

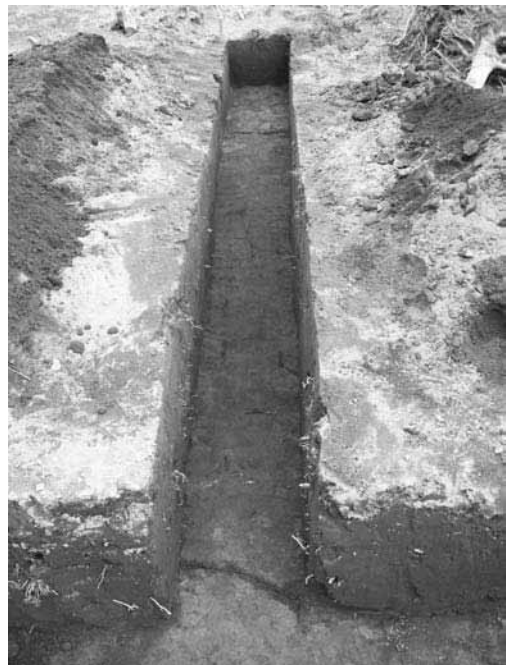
調査区は僧寺寺院地外の南東、立川段丘上に立地する。A・Bトレンチ東端でSD68溝を検出したため、規模および方向を把握するために、Dトレンチを東に拡張した。SD68溝は、上面幅3.5m、深さ1.2mを測り、主軸は

武蔵国分寺の中軸線より約8度東偏する。溝の覆土から瓦片が少量出土した。

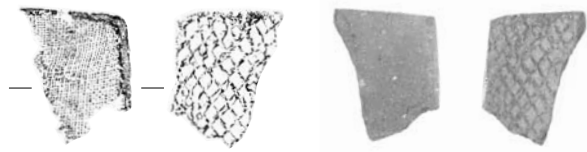
なお、SD68溝は本調査区の約250m北の第35次調査区等でも確認されている。



Aトレンチ SD68 溝土層断面 (南から)



Dトレンチ拡張区遺構確認状況 (西から)



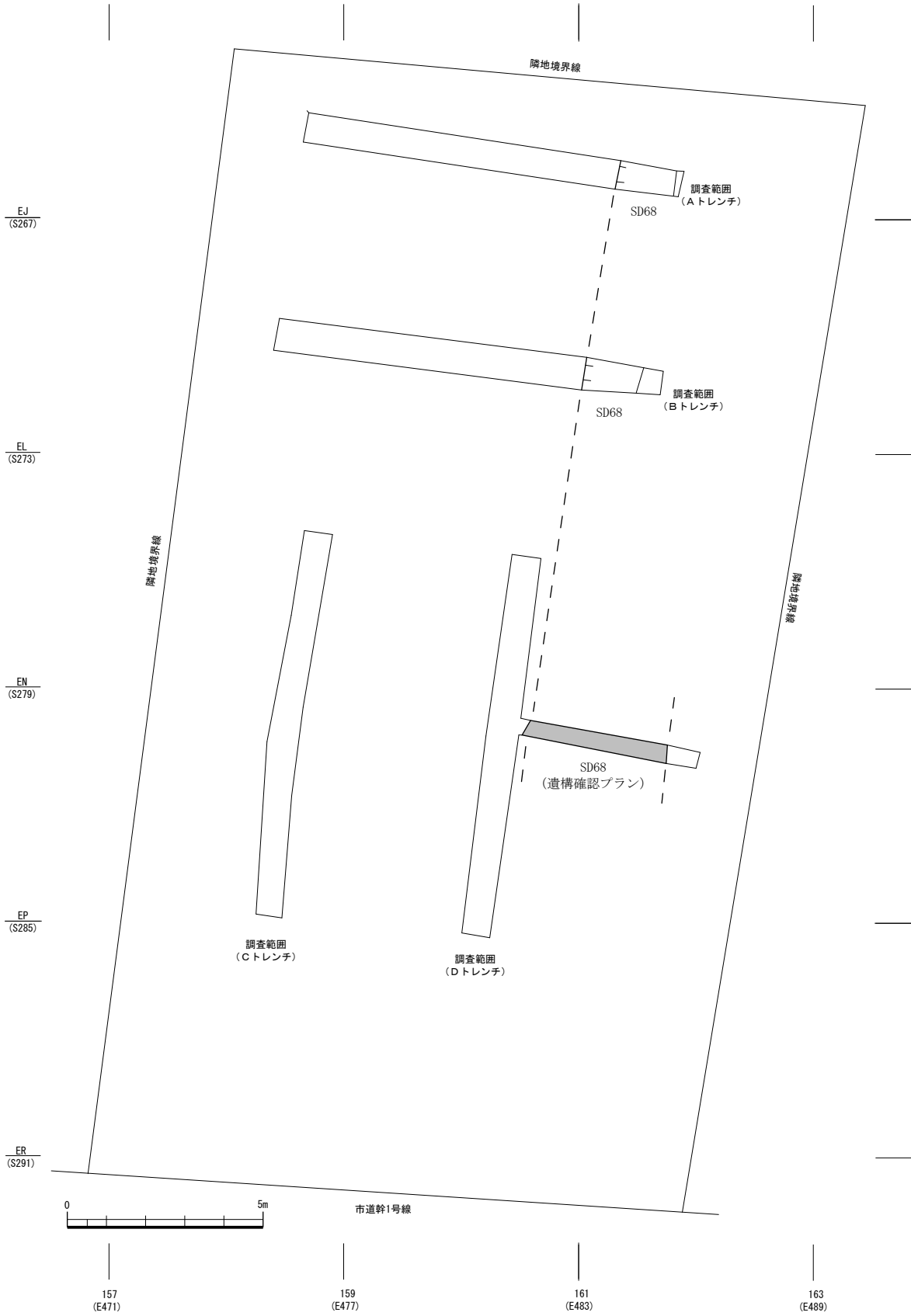
659 SD68 KD01



第659次調査出土遺物

第659次調査 女瓦一覧										
遺物番号	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴					備考	
				素材	凹面		凸面			端面特徴
					布目	特徴	叩き	特徴		
KD01	SD68 覆土	(5.6) — (7.0)	2.2	—	21×23	側端縁ヘラ削り	斜格子	—	側面1面ヘラ削り	硬質。暗灰色。胎土やや粗雑。海面骨針混入。

第2章 平成22年度に実施した発掘調査



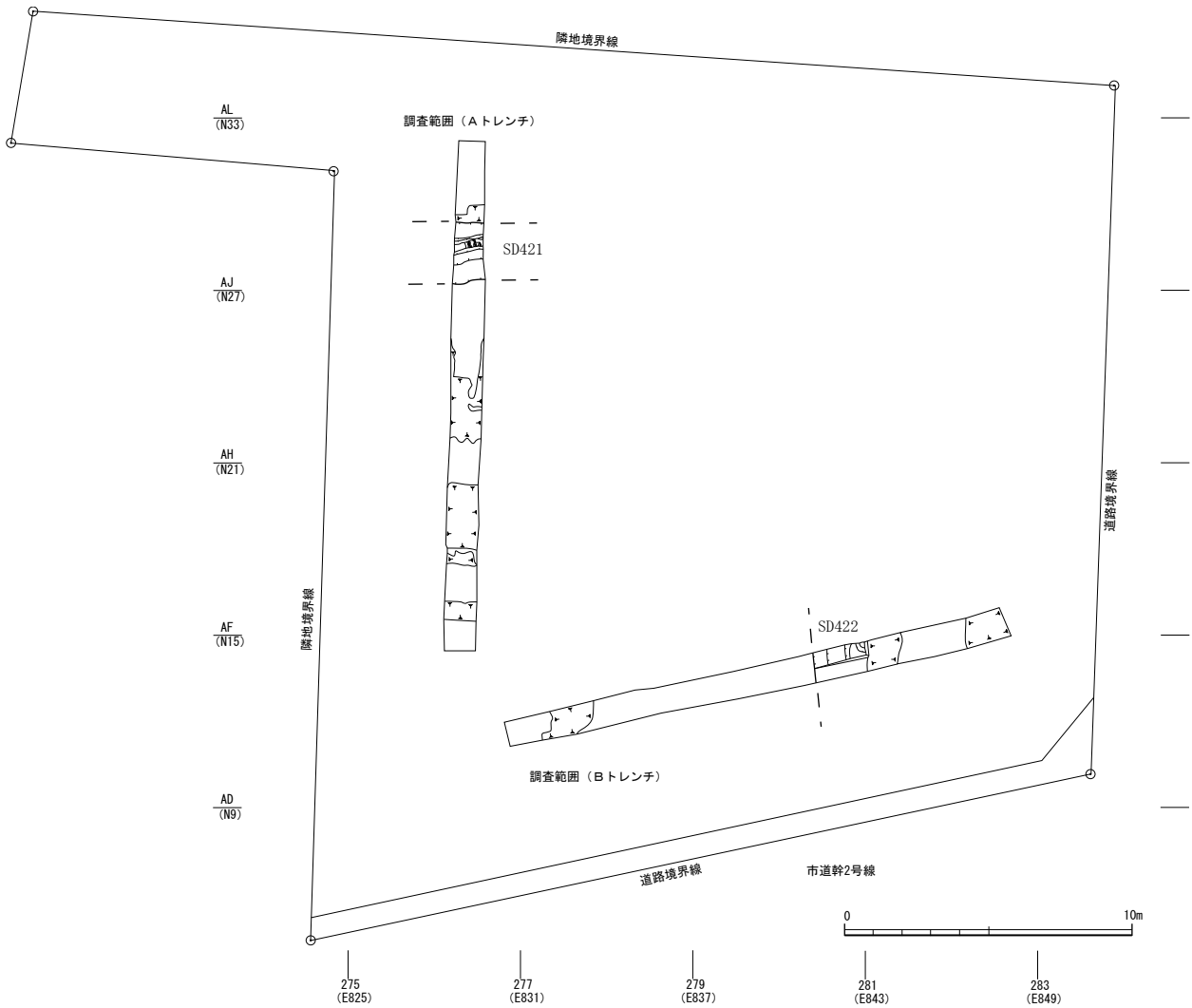
第 659 次調査区全体図

5. 武蔵国分寺跡第660次調査

所在地	国分寺市東元町3-1344	
調査原因	集合住宅建設に伴う確認調査	
期間	6月15日から17日(3日間)	
調査面積	43.96 m ²	遺物箱数 なし
検出遺構	SD421 溝・SD422 溝	
調査担当	小野本 敦	

調査の概要

調査区は僧寺寺院地外の東、立川段丘上に立地する。調査区Aトレンチ・Bトレンチとも、現地表面下50cmで歴史時代の遺構面を確認し、溝を2条(SD421・SD422)検出した。いずれの溝も覆土の様相から、近世以降の所産と考えられる。



Aトレンチ全景(南から)

第660次調査区全体図



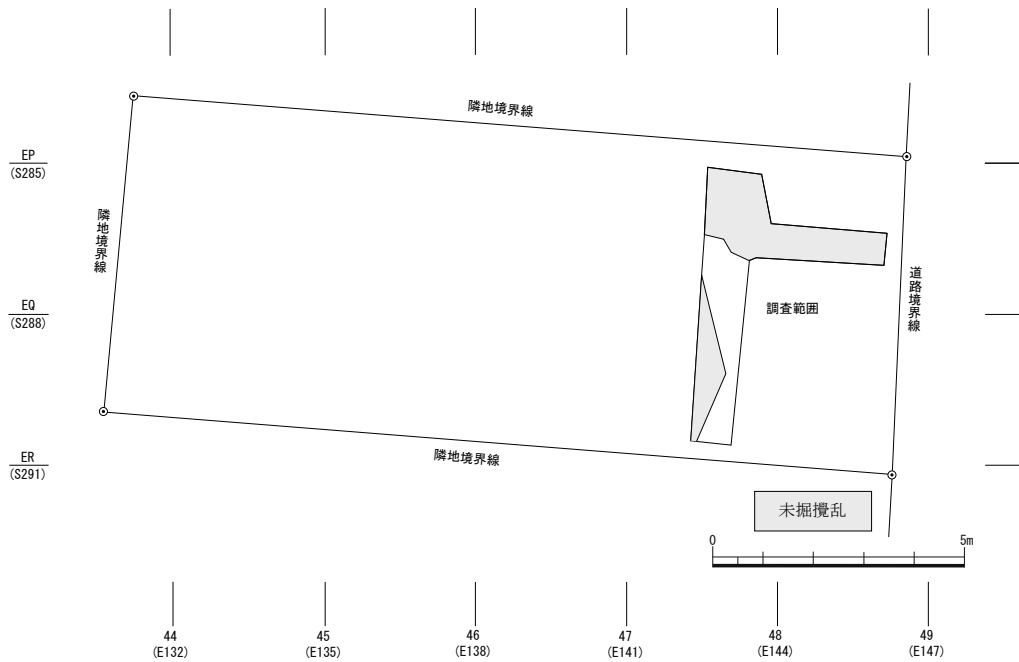
Bトレンチ全景(西から)

6. 武蔵国分寺跡第661次調査

所在地	国分寺市西元町3-2056-34	
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査	
期間	5月25日から26日(2日間)	
調査面積	6.86 m ²	遺物箱数 なし
検出遺構	なし	
調査担当	小野本 敦	

調査の概要

調査区は僧寺寺院地内の南東、立川段丘上に立地する。工事の予定掘削深度である現地表面から70cm程度まで全体に攪乱されており、わずかに確認できた地山も、立川ローム第IV層以下であり、奈良・平安時代の遺構面は残存していなかった。



第661次調査区全体図



調査区西側(北から)



調査区東側(西から)

7. 武蔵国分寺跡第662次調査

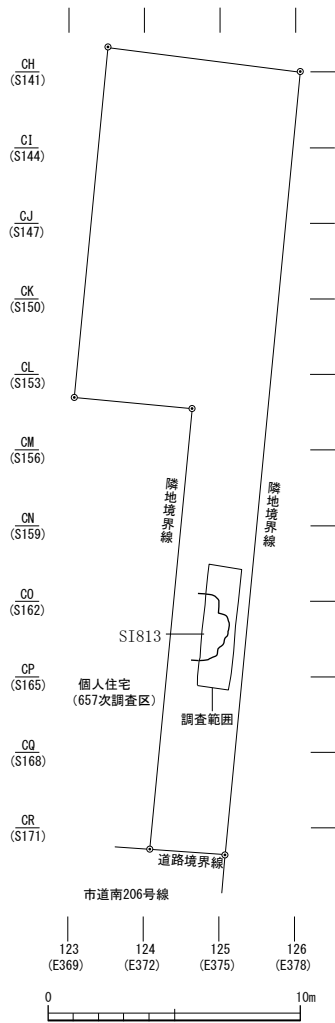
所在地	国分寺市東元町4-1964-3		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	6月7日から6月17日(8日間)		
調査面積	6.19 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SI813 竪穴住居		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

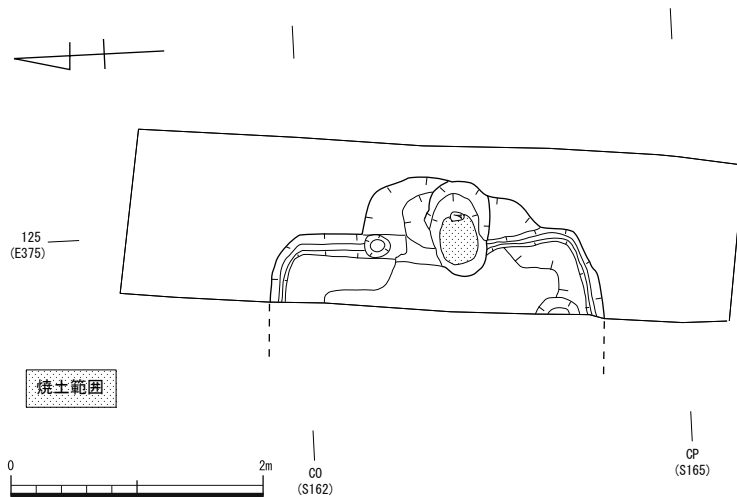
調査区は僧寺寺院地内の南東、立川段丘上に立地する。SI813 竪穴住居は、隣接地の調査でも検出されており、規模は、東西幅約2.8m、南北幅約2.8mで、東辺にカマドを有する。カマドは、火床部に支脚として使用したと考えら

れる焼礫が残存しているほかは、構築材に用いられた瓦はすべて抜き取られていた。貼床の下層からは、住居北辺と平行する溝状の掘り込みが検出された。調査区が狭小であるため不明確であるが、これが構築時の住居の南壁際周溝とすれば、建て替えを行っている可能性もある。

遺物は、土師器甕、土師質土器坏、女瓦が出土したが、床面直上から出土した遺物は比較的少量である。出土土器は、おおむね10世紀後半に位置付けられる。



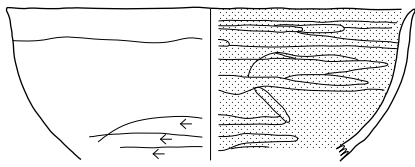
第662次調査区全体図



SI813 平面図



SI813 竪穴住居使用時全景 (西から)

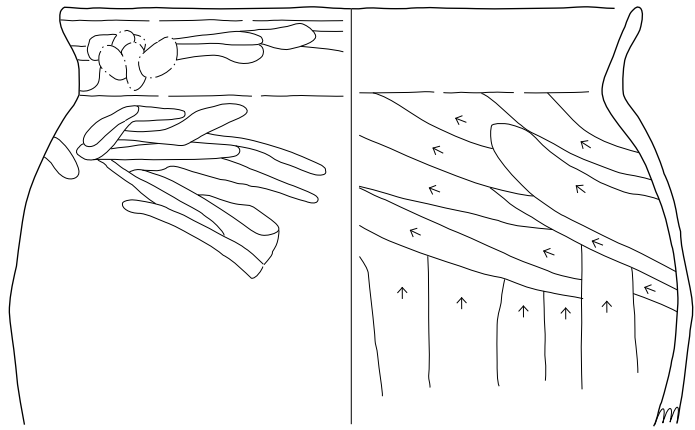


黒色処理範囲

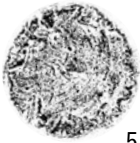
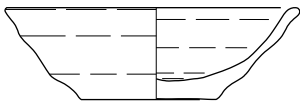
1 662 SI813 PH01



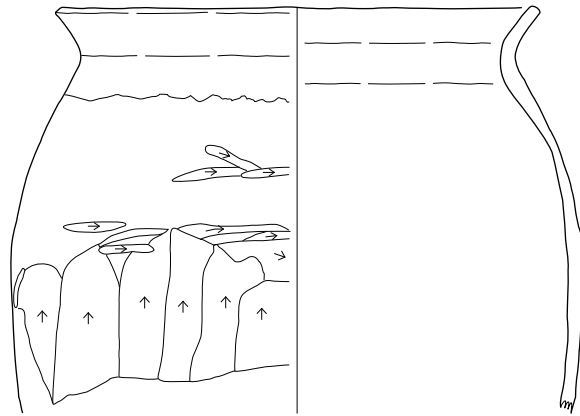
4 662 SI813 PH04



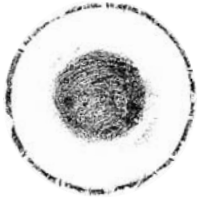
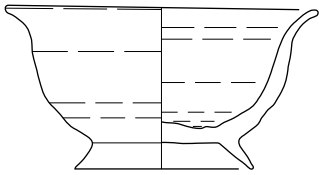
2 662 SI813 PH02



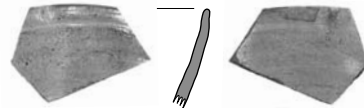
5 662 SI813 PL01



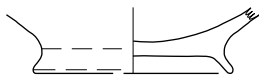
3 662 SI813 PH03



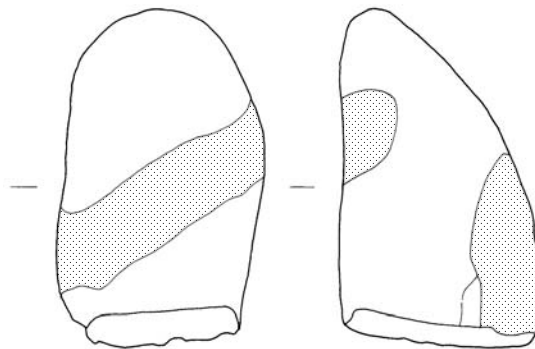
6 662 SI813 PL02



8 662 SI813 PP01



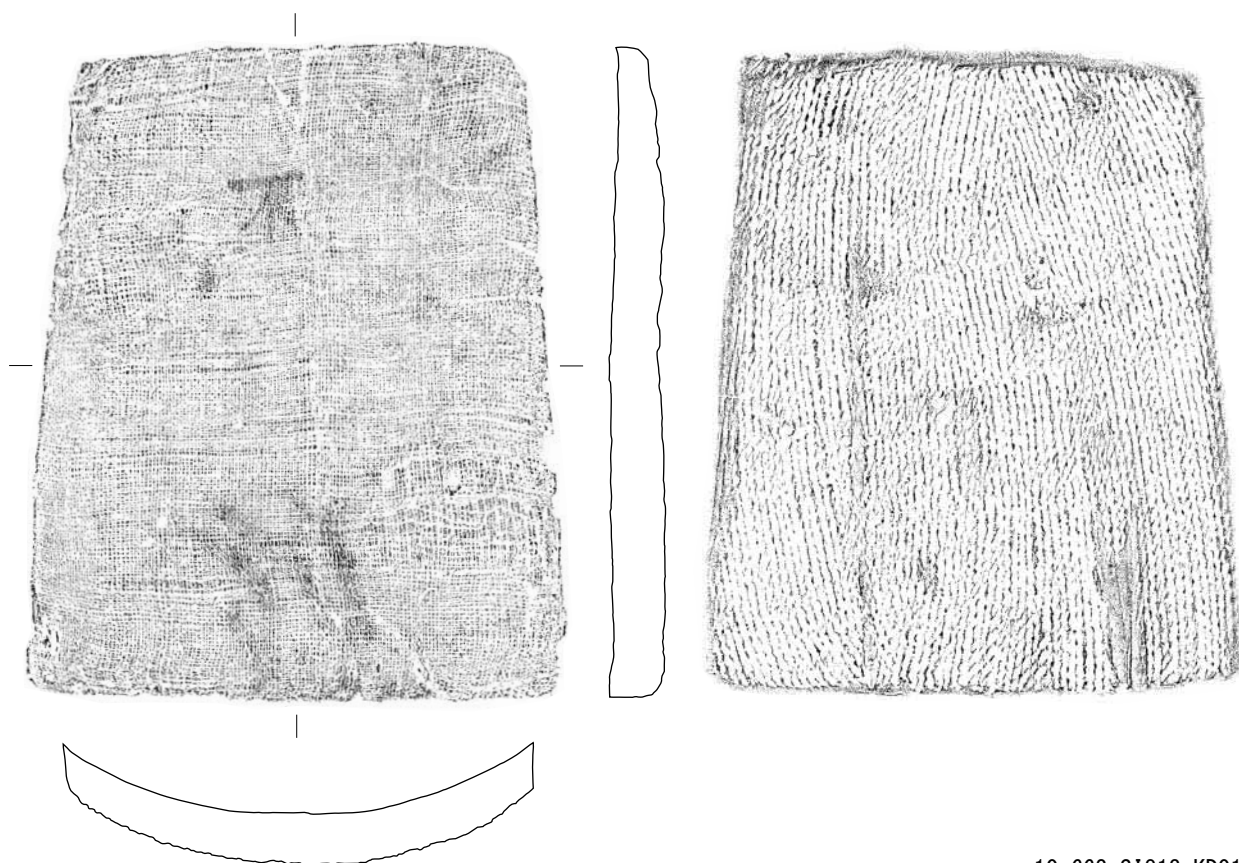
7 662 SI813 PL03



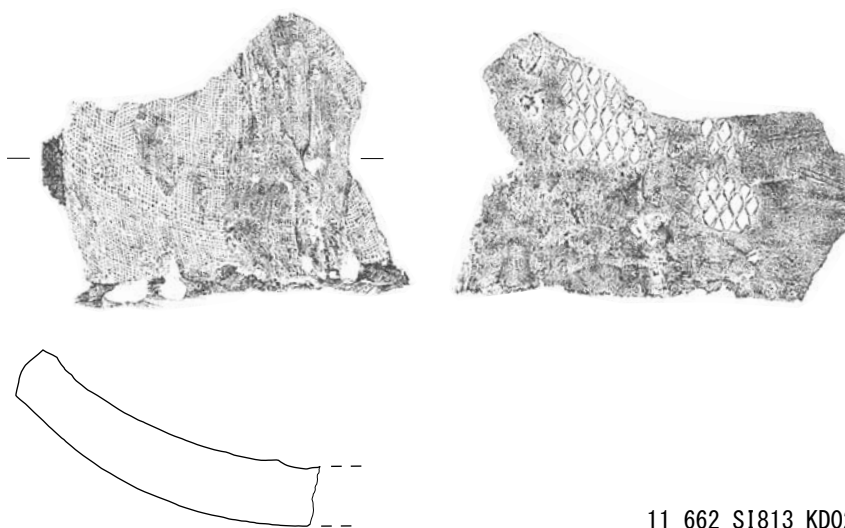
煤付着範囲

9 662 SI813 GJ01





10 662 S1813 KD01



11 662 S1813 KD02



第2章 平成22年度に実施した発掘調査



PH01



PH02



PL01



PL02



PH03



KD01

第662次調査出土遺物(3)

第2章 平成22年度に実施した発掘調査

第662次調査 土器一覧

遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 PH01	土師器 埴	SI813 覆土	((15.8)) (6.0) —	口唇部わずかに外傾。体部上半やや張る。	体部へら削り。口縁部横ナデ。内面黒色処理後、横方向のへら磨き。	内黒土器。体部の1/3残存。外部淡褐色。胎土緻密。
2 PH02	土師器 甕	SI813 覆土	((22.4)) (16.4) —	頸部やや「コ」の字状。体部上半やや張る。	外面は荒い調整で頸部は指頭調整。外面は横・斜め方向のへら削り。内面は斜め・縦方向のへら削り。	口縁から胴部にかけて1/3残存。外面指頭痕。明黄褐色。小石を混入。
3 PH03	土師器 甕	SI813 覆土	((18.4)) (16.0) —	頸部は「く」の字状。口唇部は平坦。	内外面ともに丁寧な横ナデと指頭調整。	口縁から胴部にかけて1/3残存。暗黄褐色。白色砂粒を少量混入。
4 PH04	土師器 甕	SI813 カマド	— (1.7) 6.4	—	内面は光沢のある丁寧なへら磨き。外面は横位のへら削り。	底部のみ残存。淡褐色。胎土緻密。焼成良好。
5 PL01	土師質土器 坏	SI813 覆土	11.4 3.6 5.3	厚い底部から体部は外反して立ち上がる。2段の稜線が明瞭。	底部回転糸切り。	完形。明茶～黒褐色。やや軟質。白色砂粒を多く、小石を少量含む。
6 PL02	土師質土器 高台付埴	SI813 覆土	12.0 6.4 6.8	体部は緩やかな丸みを有し口縁は大きく外反。高台断面台形。	底部回転糸切り後高台部貼り付け。	高台高1.0cm。完形。淡褐色。やや硬質。白色砂粒を多く含む。銅鍍の模倣か。
7 PL03	土師質土器 高台付埴	SI813 カマド	— (2.6) (7.6)	中心部のやや薄い底部から体部は広く外反する。高台断面三角形。	底部回転へら削り後高台部貼り付け。内外面ともに丁寧なへら磨き。	高台高1.1cm。1/3残存。暗茶褐色。胎土緻密。
8 PP01	緑釉陶器 埴	SI813 覆土	((13.0)) (3.9) —	口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。	ロクロ成形が明瞭。口唇部に圧痕あり。	口縁部の一部残存。全面施釉され光沢のある緑色。胎土は硬質で緻密。

第662次調査 女瓦一覧

遺物番号	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面特徴	
					布目	特徴	叩き	特徴		
10 KD01	SI813 覆土	(22.2) 26.7 34.1	2.6	粘土紐	20×21	端面無調整。	縄目 L7本	2条の棒状 圧痕あり。	側・端面ともにナデ。	凹面に模骨「万」？あり。暗灰色。硬質。胎土やや粗雑。粗砂粒・5mm大の小石混入。
11 KD02	SI813 覆土	— (17.5) (14.5)	3.4	粘土板	17×17	一部ナデ。	斜格子	—	端面2面へら削り。	暗灰色。硬質。胎土粗雑。0.5～1cm大の小石を多く混入。

第662次調査 石製品一覧

遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
9 GJ01	支脚	SI813 カマド	13.2	8.2	7.0	1135	完形	砂岩	煤付着。

8. 武蔵国分寺跡第663次調査

所在地	国分寺市西元町1-2448-1, 2448-18		
調査原因	モデルルーム建設に伴う確認調査		
期間	7月27日から8月2日(4日間)		
調査面積	34.17 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SX320 性格不明遺構 P-1 ~ P-5		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区は僧寺寺院地外の北東、武蔵野段丘上に立地する。Aトレンチは、工事の予定掘削深度まではすべて盛り土であった。Bトレンチでは、現地表面から110cm下で奈良・平安時代の遺物包含層(Ⅱ層~Ⅲa層)を確認し、Ⅲa層上層でSX320性格不明遺構

構、小穴5基(P-1~P-5)を検出した。

SX320性格不明遺構は、表土とⅢa層の境で検出した遺物集中部である。遺物を取り上げていったところ、地山にわずかな窪みが確認できた。また、覆土には若干の焼土が含まれていた。しかし、周囲は切り株によって大きく攪乱されており、遺構の性格解明には至らなかった。P-1~P-5はいずれも小規模であり、遺物は検出されなかった。



第663次調査区全体図

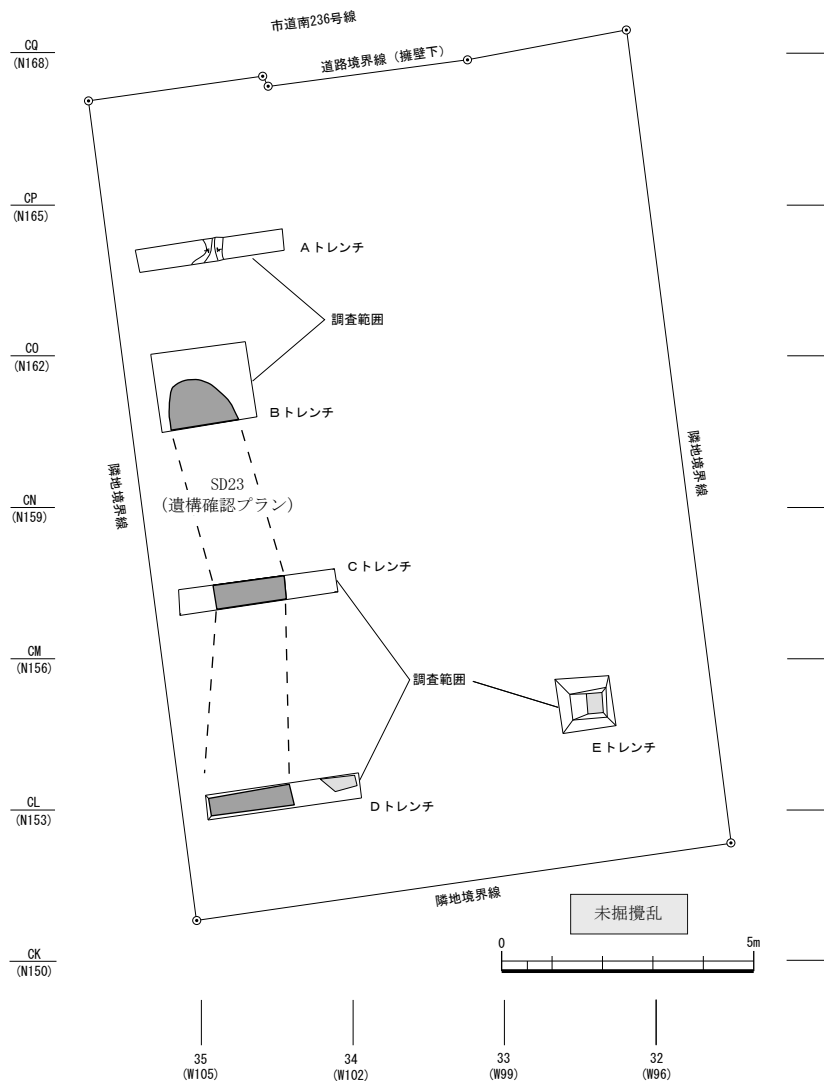
9. 武蔵国分寺跡第664次調査

所在地	国分寺市西元町2-11-41		
調査原因	社員寮建設に伴う確認調査		
期間	8月9日から8月11日(3日間)		
調査面積	7.74 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SD23 溝		
調査担当	小野本 敦		
備考	本調査に移行		

調査の概要

調査区は僧寺伽藍地内の北西、国分寺崖線地帯に立地する。Aトレンチは、厚さ15cmほどの表土を除去するとすぐにローム層が露出したが、遺構は検出されなかった。B～Dトレンチでは、表土直下から僧寺伽藍地西側区画溝(SD23溝)と考えられる溝跡のプランが確認された。遺構が確認された表土下の深度は、Bトレンチで10cm、Cトレンチで40cm、Dトレンチで50cm(いずれも調査区の南側で計測)を測る。溝跡からは、瓦片が多く出土した。敷地南東隅に設けたEトレンチでは、現地表面より80cmほど掘り下げたが、土層の堆積が厚く、遺物包含層までは到達しなかった。

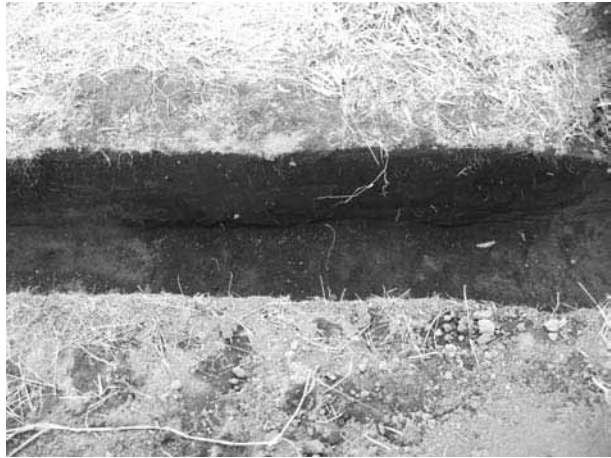
溝跡からは、瓦片が多く出土した。敷地南東隅に設けたEトレンチでは、現地表面より80cmほど掘り下げたが、土層の堆積が厚く、遺物包含層までは到達しなかった。



第664次調査区全体図



調査区全景（北から）



Cトレンチ遺構確認状況（北から）

10. 武蔵国分寺跡第665次調査

所在地	国分寺市泉町1-2419-5		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	8月24日から9月9日（12日間）		
調査面積	85.20 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	P-1～P-5		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区は僧寺寺院地外の北東、武蔵野段丘上に立地する。現地表面から50cm～60cm下でⅢb層を確認し、小穴5基（P-1～P-5）が検出された。P-1～P-5はいずれも小規模で遺物は検出されていない。配置にも規則性は認められず、用途は不明。



調査区全景（南から）

第2章 平成22年度に実施した発掘調査



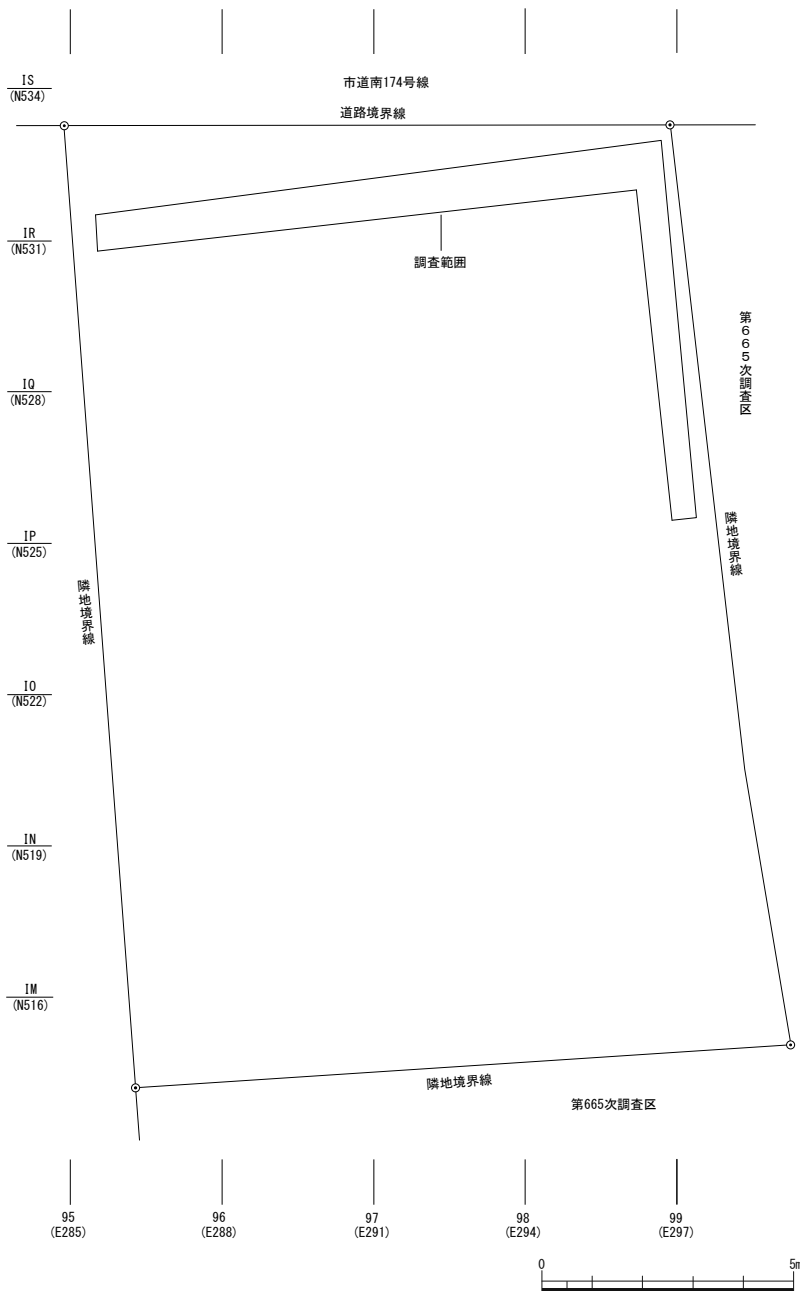
第 665 次調査区全体図

11. 武蔵国分寺跡第666次調査

所在地	国分寺市泉町1-8-13	
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査	
期間	9月10日から9月13日(2日間)	
調査面積	12.80 m ²	遺物箱数 なし
検出遺構	なし	
調査担当	小野本 敦	

調査の概要

調査区は僧寺寺院地外の北東、武蔵野段丘上に立地する。調査区内は、現地表面から50cm～60cm下でⅢb層を確認したが、遺構・遺物とも検出されなかった。



調査区北側(東から)



調査区東側(南から)

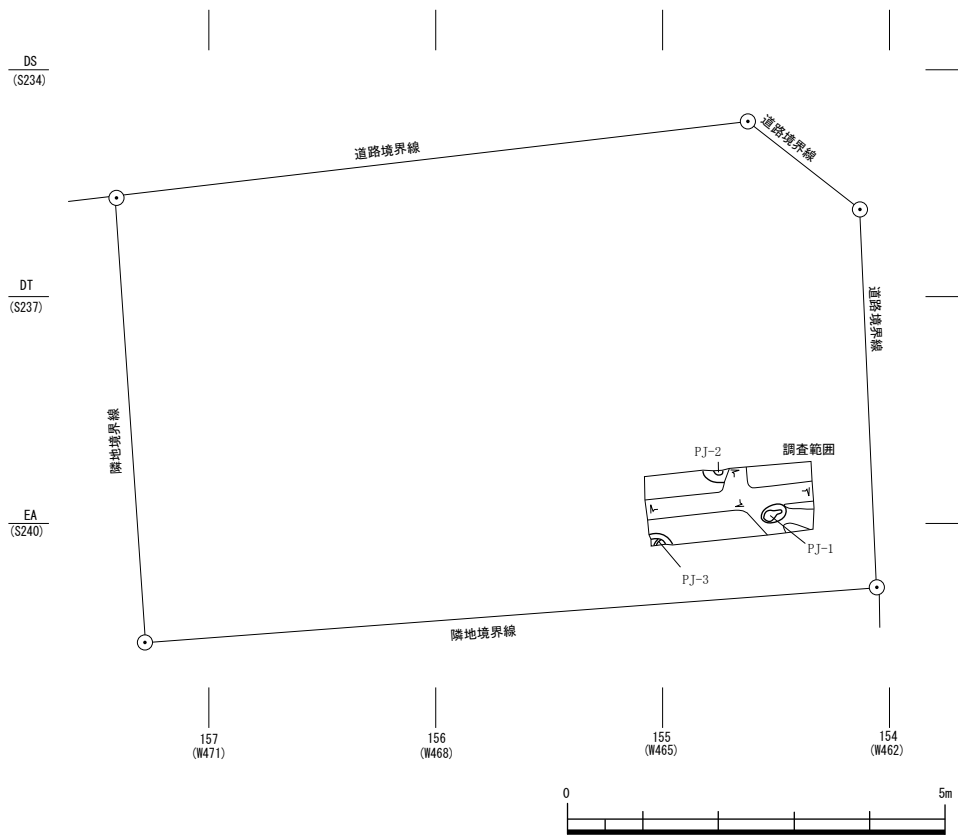
第666次調査区全体図

12. 武蔵国分寺跡第668次調査

所在地	国分寺市西元町4-7-13		
調査原因	分譲住宅建設に伴う確認調査		
期間	11月17日から11月18日(2日間)		
調査面積	2.00 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	PJ-1 ~ PJ-3		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区は尼寺中枢部の西側、立川段丘上に立地する。調査区の大部分が攪乱されていた。現地表面から40cm前後でⅢb層を確認し、小穴3基(PJ-1~PJ-3)を検出した。いずれも直径30cm、確認面からの深さ30cm程度と小規模であり、用途は不明。



第668次調査区全体図



調査区全景(東から)

13. 武蔵国分寺跡第669次調査

所在地	国分寺市西元町2-16		
調査原因	各種開発に伴う確認調査		
期間	12月9日から12月10日(2日間)		
調査面積	20.74 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SK3429 土坑		
	SX321 特殊遺構		
	P-1 小穴		
	PJ-1 小穴		
調査担当	立川明子		

調査の概要

調査区は東山道武蔵路に面する武蔵野段丘上に立地する。Aトレンチは、工事掘削深度の地表下80cmまで攪乱されていた。

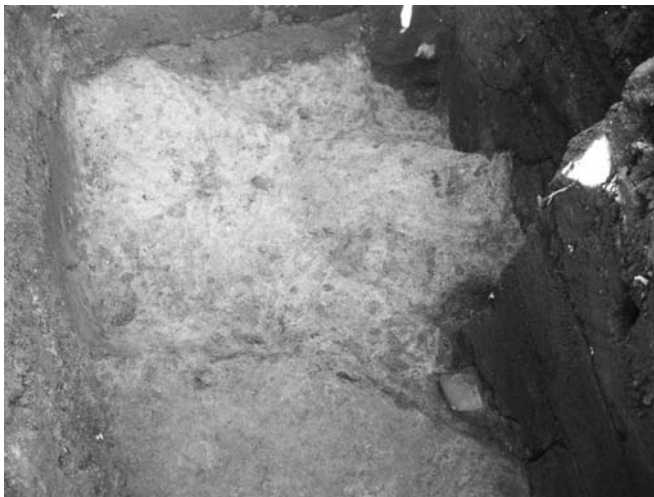
Bトレンチでは、地表下80cmのⅢc層において遺構確認を行い、歴史時代の土坑1基(SK3429)、特殊遺構1基(SX321)、小

穴1基(P-1)、縄文時代の小穴1基(PJ-1)を検出した。

SK3429土坑は南北幅30cm以上、東西幅65cm以上、深さは15cmである。

SX321特殊遺構は南北幅100cm以上、東西幅90cm以上、深さは50cmである。覆土は焼土、炭化物を多く含む。底面からは焼土塊及び火床面が検出された。土師器小甕・須恵器坏・女瓦片が出土した。須恵器坏は10世紀代の所産と考えられる。遺構南側立ち上がり付近の小穴(P-1)はSX321特殊遺構に伴うと考えられる。

縄文時代の小穴(PJ-1)は直径30cm、深さは12cmである。

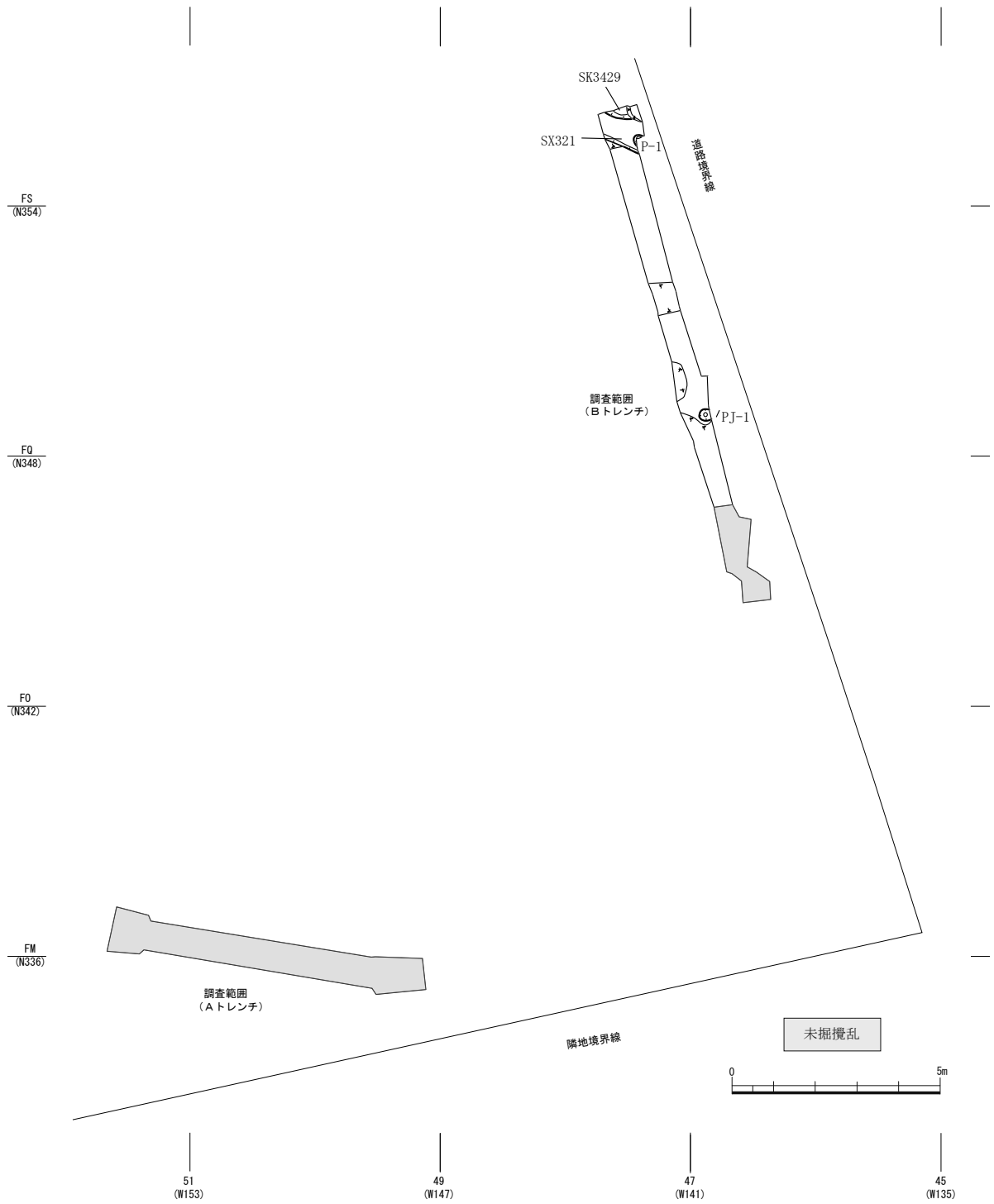


SX321 特殊遺構・SK3429 土坑完掘全景(南から)



Aトレンチ全景(西から)

第2章 平成22年度に実施した発掘調査



第 669 次調査区全体図

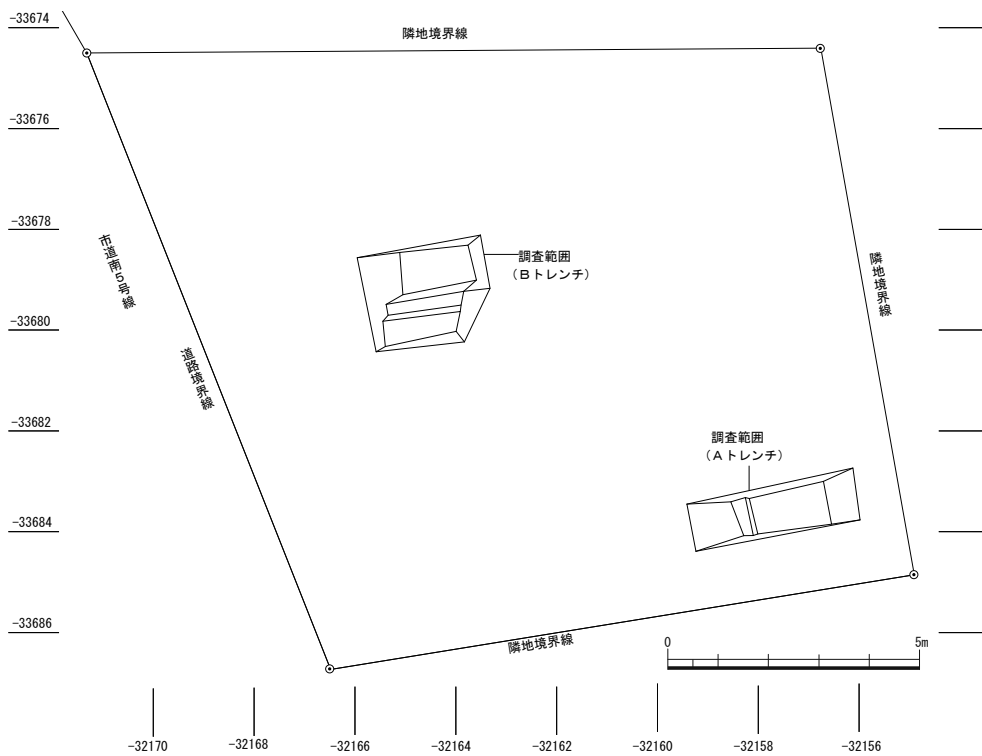
14. 八幡前遺跡第2次調査

所在地	国分寺市東元町3-24-4	
調査原因	集合住宅建設に伴う確認調査	
期間	11月29日(1日間)	
調査面積	7.88 m ²	遺物箱数 なし
検出遺構	なし	
調査担当	立川明子	

調査の概要

調査区は野川流域の微高地上に形成された縄文時代の集落跡である八幡前遺跡の西端に立地する。Aトレンチ・Bトレンチとも現地表面より約1.5mで泥質の黒褐色土層を検出し、Bトレンチでは、さらにその下層で泥質の明黄褐色土層を検出した。野川旧流路の堆積土と考えられる。

を檢出し、Bトレンチでは、さらにその下層で泥質の明黄褐色土層を檢出した。野川旧流路の堆積土と考えられる。



第2次調査区全体図



Aトレンチ全景(西から)



Bトレンチ全景(南から)

15. 八幡前遺跡第3次調査

所在地	国分寺市東元町3-14-18		
調査原因	分譲住宅建設に伴う確認調査		
期間	11月29日から12月6日(5日間)		
調査面積	12.29 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SK 1J 土坑・SK 2J 土坑 PJ- 1 小穴		
調査担当	立川明子		

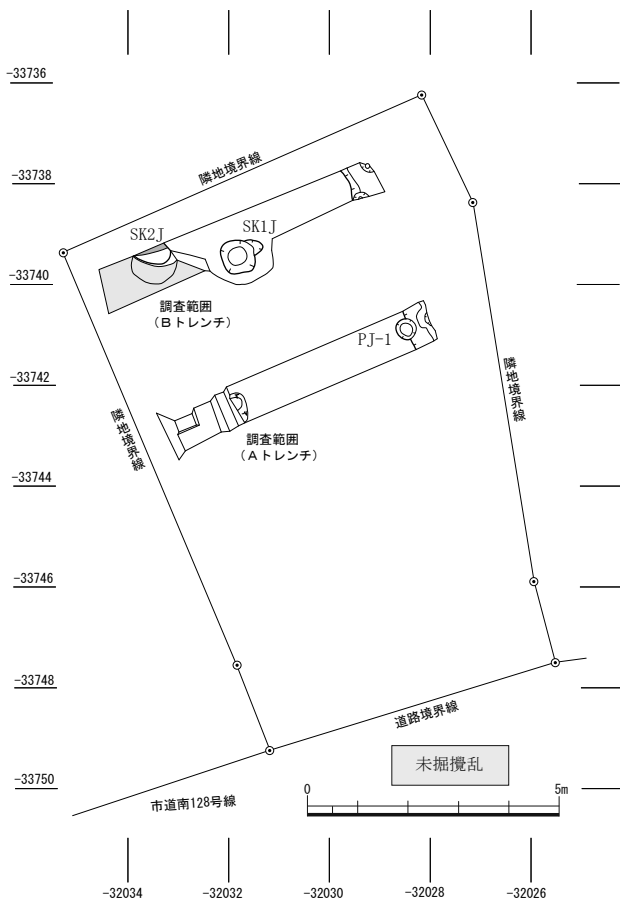
調査の概要

調査区は野川流域の微高地上に形成された縄文時代の集落跡である八幡前遺跡の南端に立地する。Aトレンチでは、地表下40cm(IV層)で縄文時代の小穴1基(PJ-1)を検出した。直径44cm、深さ22cmである。

Bトレンチでは、地表下約30cm(IV層)で縄文時代の土坑2基(SK1J・2J)を検出した。SK1J土坑は、隅丸方形を呈し、長径65cm、深さ50cmである。遺構覆土は、焼土および炭化物が多く混入していた。覆土上層から縄文土器片が出土した。SK2Jは、楕円形を呈し、長径65cm以上、短径45cm以上である。覆土はSK1J土坑と類似する。

旧石器時代の調査は、Aトレンチで地表下160cmのVIII b層まで掘り下げたが遺構・遺物は検出されなかった。

SK1J土坑から出土した縄文土器は堀之内I式の壺の口縁部から胴部である。接合しない小片も同一個体と思われる。また、遺構外から黒曜石の石刃が出土した。



第3次調査区全体図

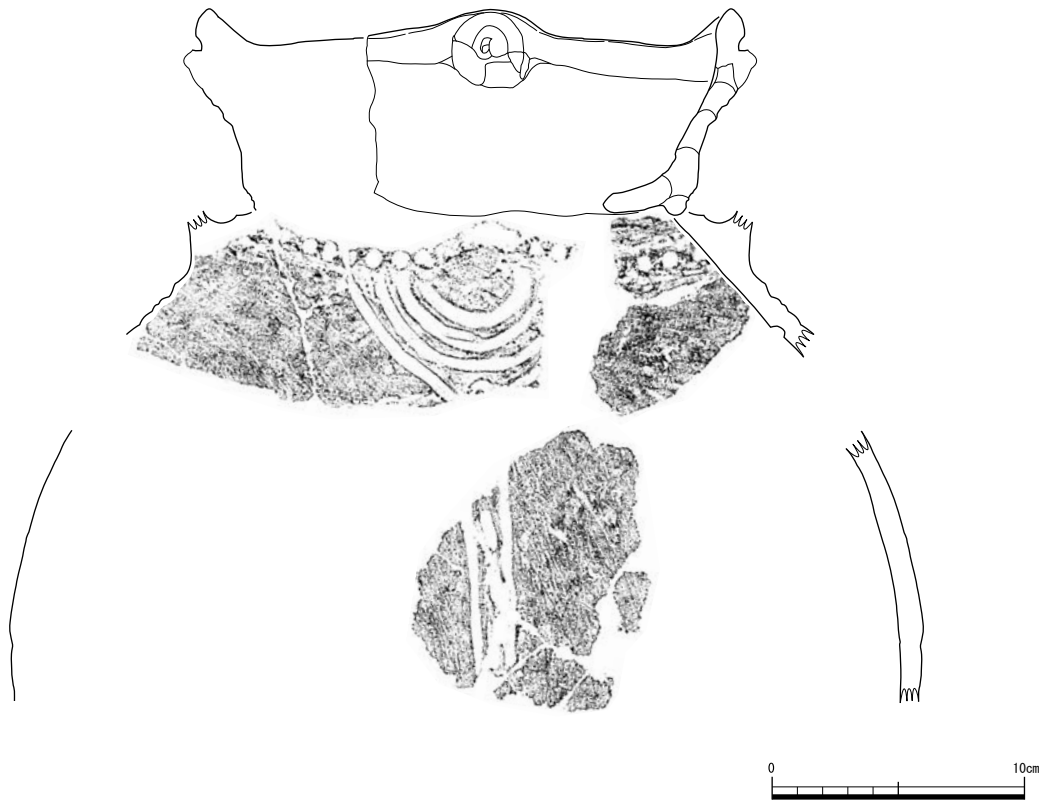


Aトレンチ全景(東から)

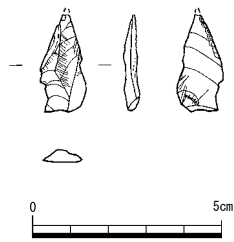


SK1J遺物出土状況(北から)

第2章 平成22年度に実施した発掘調査



1~3 K18-3 SK1J JG01~03



4 K18-3 遺構外 FB01



第3次調査出土遺物

第2章 平成22年度に実施した発掘調査

第3次調査 土器一覧						
遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JG01	壺形土器	SK1J 覆土	((20.4) (13.7) —	波状口縁で4突起を有する。 頸部は「く」の字状に括れ、 内面に粘土を継ぎ足して内側 に突出させる。	内外面ともに丁寧な磨き。頸部下 に刻目を施した隆帯を弧状に貼り 付ける。弧の頂点から口縁の突起 に取手が付く(欠損)。胴部は沈線 で弧文を描く。	1/4残存。焼成良好。外面は暗褐色、内面は赤褐色。頸部径17.8cm(復元値)。胎土はやや粗く、砂粒を少量含む。堀之内I式。
2 JG02	壺形土器	SK1J 覆土	(10.9) — —			1と同一個体。胴部下半。
3 JG03	壺形土器	SK1J 覆土	(7.3) — —			1と同一個体。胴部上半。

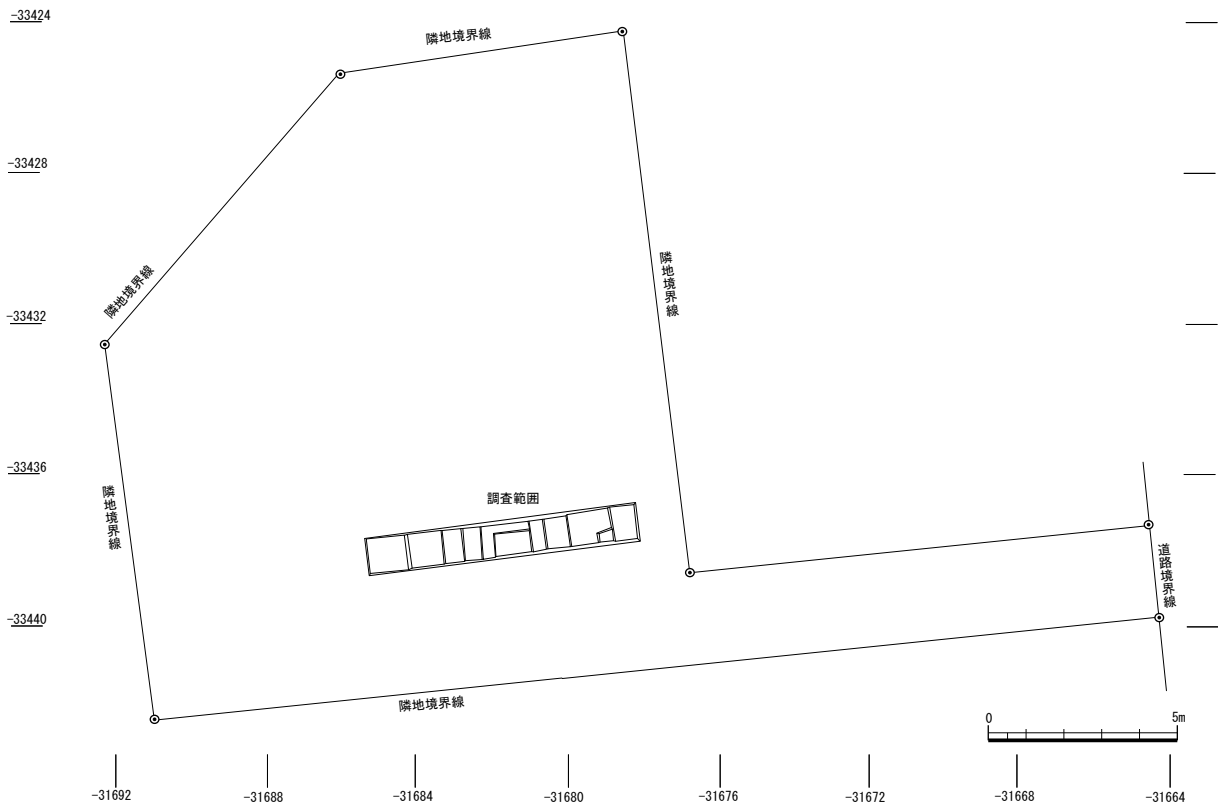
第3次調査 石器一覧									
遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
4 FB01	石刃	遺構外	2.1	1.2	0.4	0.8	完形	黒曜石	剖面左端部に微調整を施す。

16. 殿ヶ谷戸遺跡第12次調査

所在地	国分寺市南町2-281-70外		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	8月26日から9月1日(5日間)		
調査面積	7.31 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
調査担当	立川明子		

調査の概要

調査区は西側が谷に面した殿ヶ谷戸遺跡の縁辺部に立地する。地表下約40～50cmでⅢb層、約90～100cmでⅢc層を確認し、さらに調査区中央部を地表下約180cm(Vb層下層)まで掘り下げたが、遺構は検出されなかった。表土から縄文土器1点(阿玉台式)が出土した。



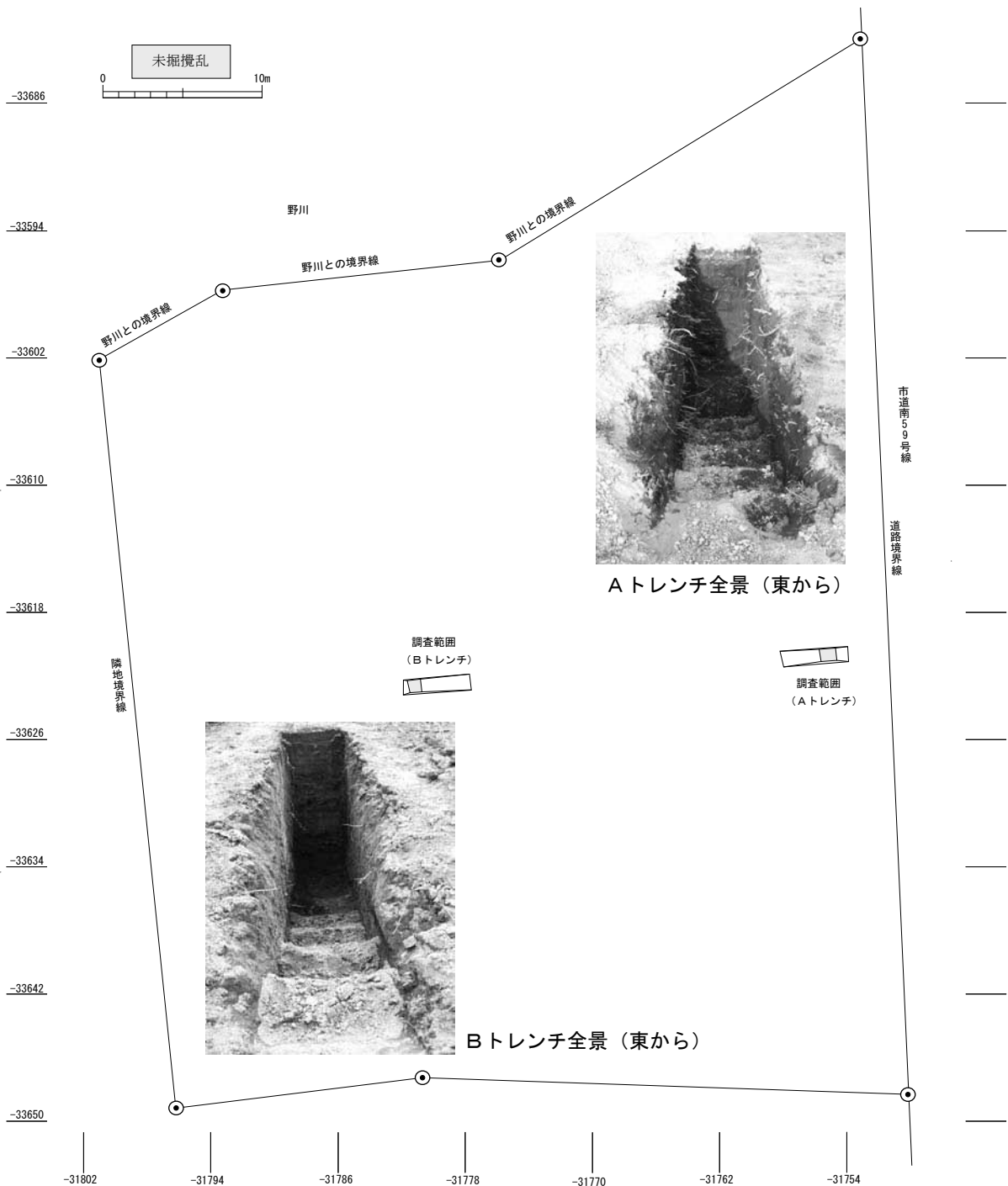
第12次調査区全体図

17. No.27 遺跡第1次調査

所在地	国分寺市東元町2-485外	
調査原因	宅地造成に伴う確認調査	
期間	6月21日から6月22日(2日間)	
調査面積	7.90 m ²	遺物箱数 なし
検出遺構	なし	
調査担当	小野本 敦	

調査の概要

調査区は野川流域の縄文時代の遺物散布地であるNo.27遺跡の中心に立地する。調査区は工事掘削深度である現地表面から2mまで攪乱が及んでおり、遺物も出土しなかった。



第1次調査区全体図

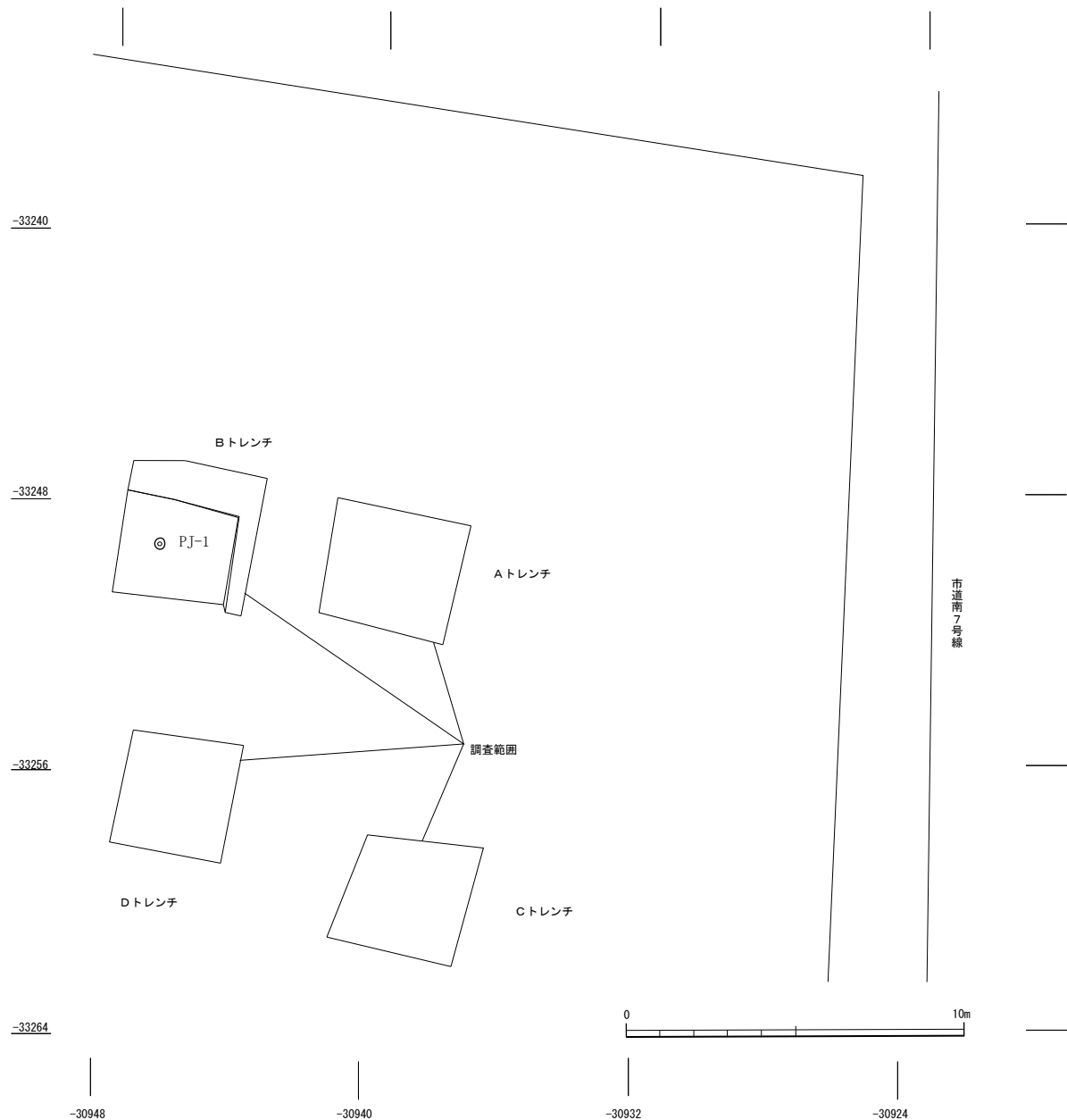
18. 東京経済大学構内遺跡第6次調査

所在地	国分寺市南町1-7-34		
調査原因	各種開発に伴う確認調査		
期間	9月6日から10月6日(14日間)		
調査面積	53.92 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	PJ-1 小穴		
調査担当	上敷領 久		

調査の概要

調査区は国分寺崖線の湧水点(新次郎池)を南に見下ろす東京経済大学構内遺跡の東端に立地する。調査区全域がは厚い盛土で覆われており、その下層で縄文時代の遺物包含層(Ⅲ層)を確認した。Bトレンチにおいて、Ⅲ層中より

縄文時代の小穴1基(PJ-1)を検出した。CトレンチⅢ層中より、黒曜石の石核が1点出土した。



第6次調査区全体図



Bトレンチ全景（北から）



Dトレンチ全景（西から）

19. 花沢東遺跡第12次調査

所在地	国分寺市2-370-5外		
調査原因	集合住宅建設に伴う確認調査		
期間	4月9日から4月26日（7日間）		
調査面積	44.68 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区は南西側が谷に面した花沢東遺跡の北東隅に立地する。B～Dトレンチは、いずれも現地表面から2m程度掘削しても地山に達しなかったため、旧野川によって開削された谷部分

に当たると考えられる。調査区内でもっとも標高の高いAトレンチでは、今回の調査区で唯一地山のローム層が検出された。ローム層の堆積は北東から南西に向かって急激に傾斜する。

遺物は、Aトレンチのローム層直上の再堆積層から、縄文時代中期の土器片が出土した。谷地形が埋没する過程で流れ込んだと考えられる。ローム層からは、転落と考えられる自然石が1点出土したのみである。

調査区周辺は現状でも緩やかに北東から南西に傾斜した地形であるが、旧石器時代にはこの傾斜がより急峻であり、調査区の大部分が谷底であったことが明らかになった。

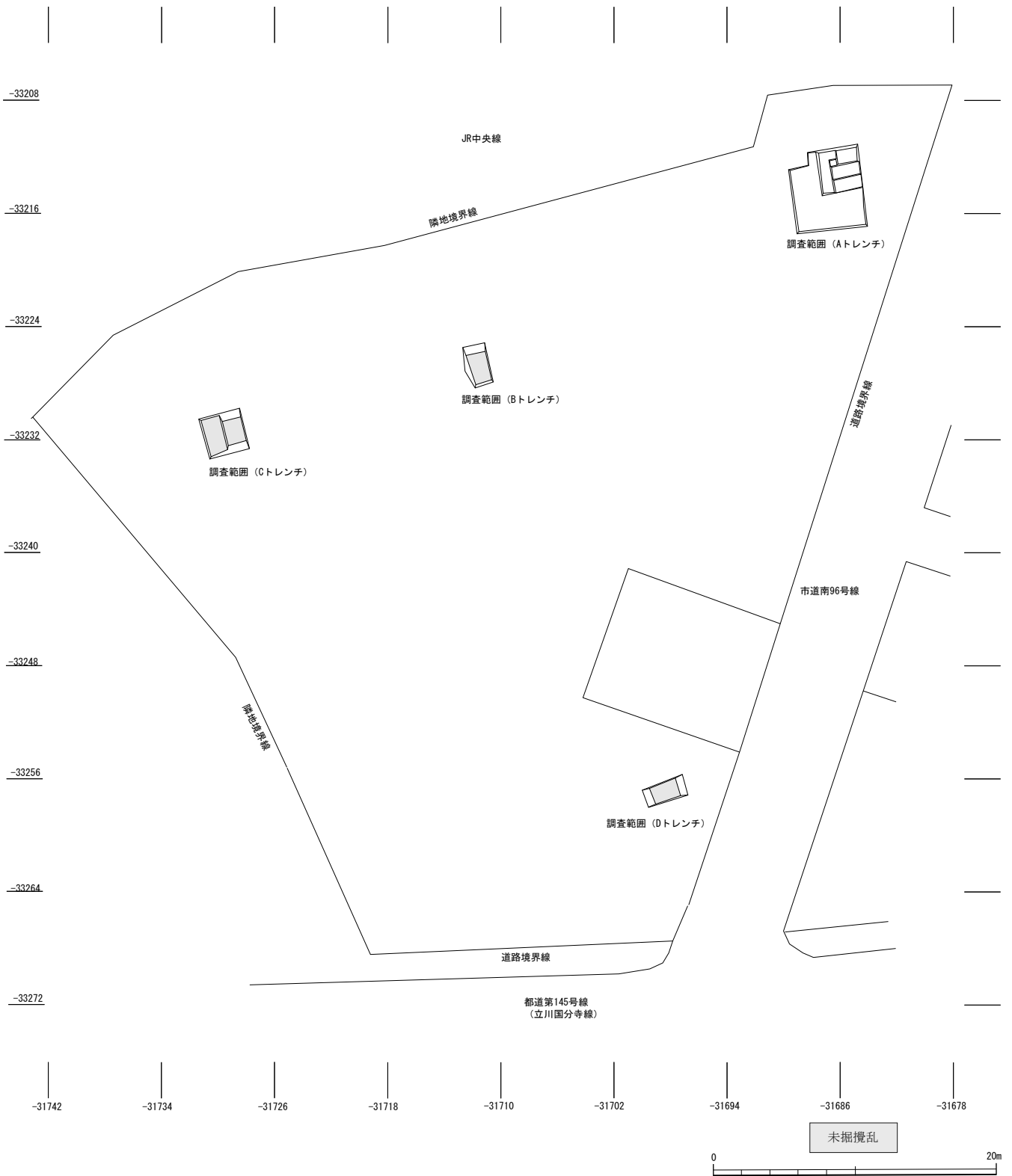


Aトレンチ土層断面（南から）



Cトレンチ全景（北から）

第2章 平成22年度に実施した発掘調査



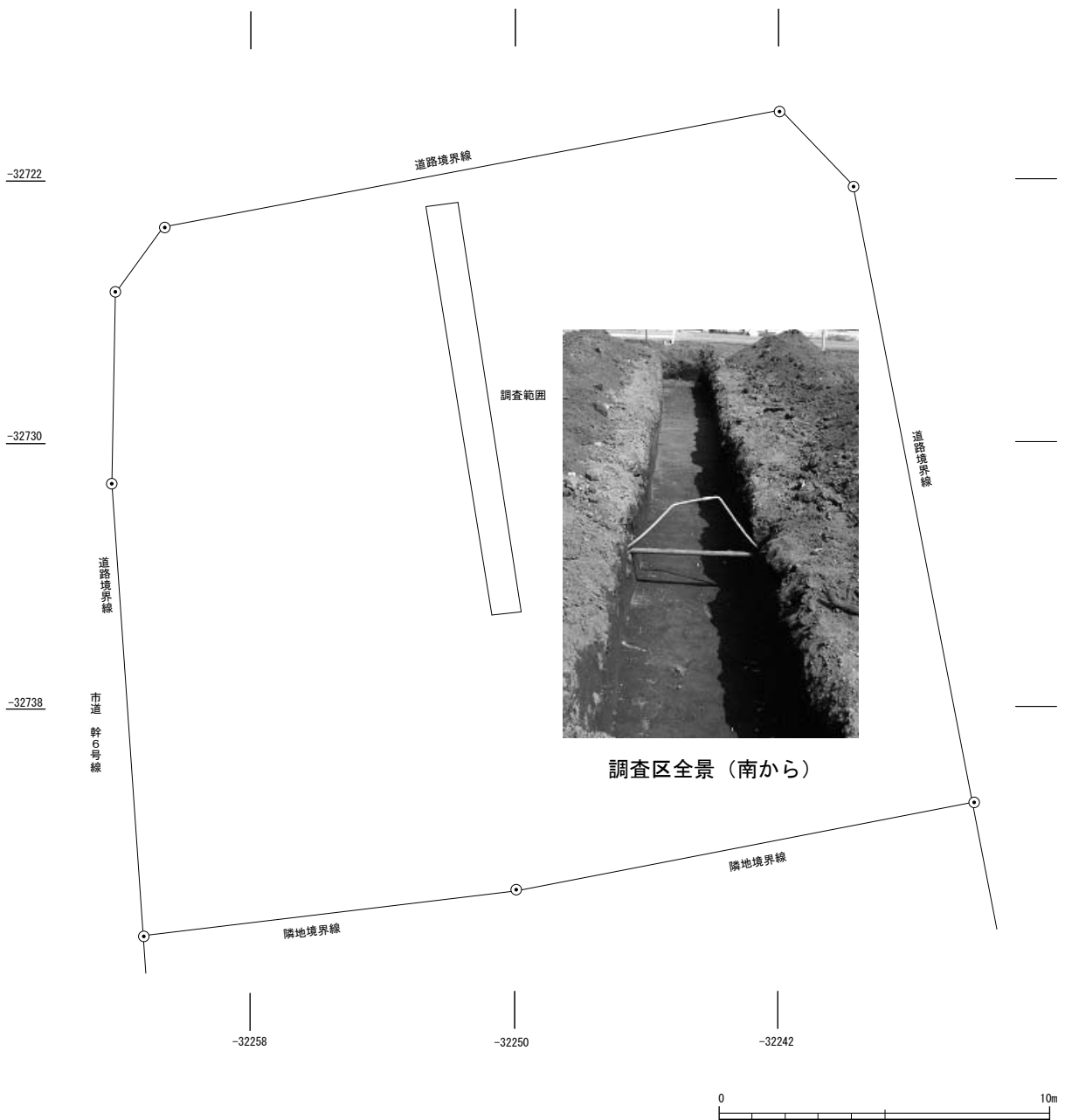
第12次調査区全体図

20. 恋ヶ窪東遺跡第21次調査

所在地	国分寺市本町4-25-7		
調査原因	集合住宅建設に伴う確認調査		
期間	8月23日(1日間)		
調査面積	11.72 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
調査担当	小野本 敦		

調査の概要

調査区はさんや谷の縁辺からやや離れる恋ヶ窪東遺跡の北側に立地する。表土層の下層でⅢ層を確認したが、遺構は検出されなかった。Ⅲ層中より、縄文時代中期後半の土器片が3点出土した。



第21次調査区全体図

第3章 小結

1. 僧寺寺院地西辺区画溝について

武蔵国分寺跡第 664 次調査では、武蔵国分僧寺の伽藍地西辺区画溝（SD23 溝）が確認されたため、記録保存を目的とした本発掘調査を行った（第 667 次調査）。本調査の詳細は今後正式報告書で果たすこととしたいが、底面の幅が 1.1m～1.2m で断面形状が逆台形を呈する溝の底面付近が確認されている。第 664・667 次調査によって、伽藍地西辺区画溝の北端から南へ約 100 m の区間についてはかなり詳細に状況が把握できるようになった（第 1 図）。

2. 八幡前遺跡の再検討

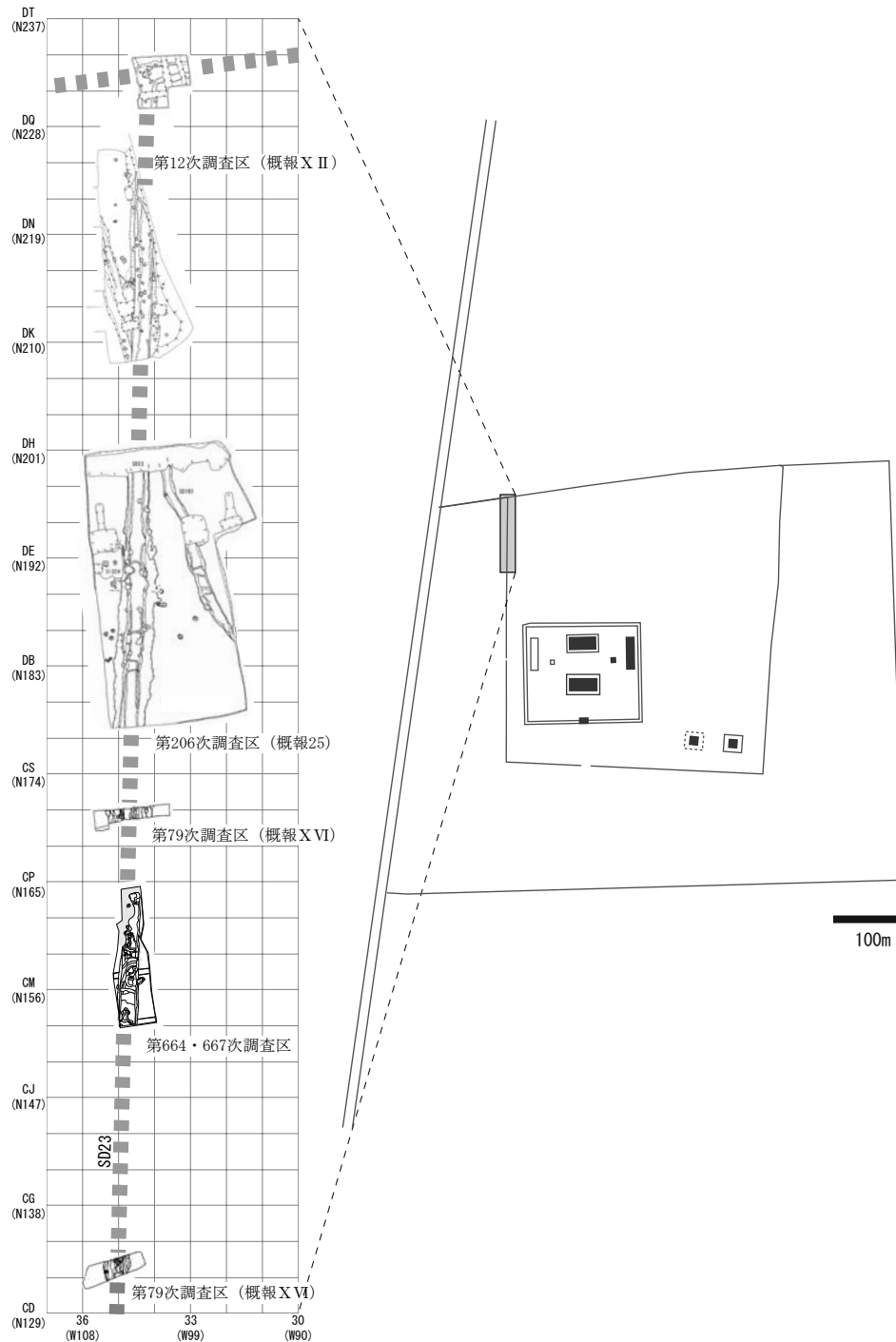
八幡前遺跡は現在の東元町三丁目付近、野川右岸の微高地上に展開する。昭和 24 年に吉田格らによって発掘調査が行われ、堀之内Ⅱ式から加曾利 B 1 式の土器や打製石斧・石鏃・石錘などが出土し、石器製作跡と推定された（吉田 1951）。この調査によって八幡前遺跡は多摩地域全域においても類例の少ない縄文時代後期の遺跡として早くから認知されていたものの、吉田の調査地点も不詳となってしまったほか、その後の調査事例が少なかったこともあり、実態は不明確である。

平成 22 年度に行った八幡前遺跡第 3 次調査では、土坑 1 基から口縁部を中心とする土器片がまとまって出土した。土器は縄文時代後期前葉の堀之内Ⅰ式に位置付けられる壺形土器である。注目されるのは、頸部のくびれ部分の内側に粘土を継ぎ足して突出させている点である。こうした器形は都内では初出と思われるが、東日本を中心に類例が知られ、いずれも後期段階に位置付けられている（第 2 図）。壺形土器に限って認められる特徴であるという点や、年代的な一致から、何らかの関連が想定されるものの、いずれの遺跡においても出土量は客体的であり、具体的な関係は不明である。

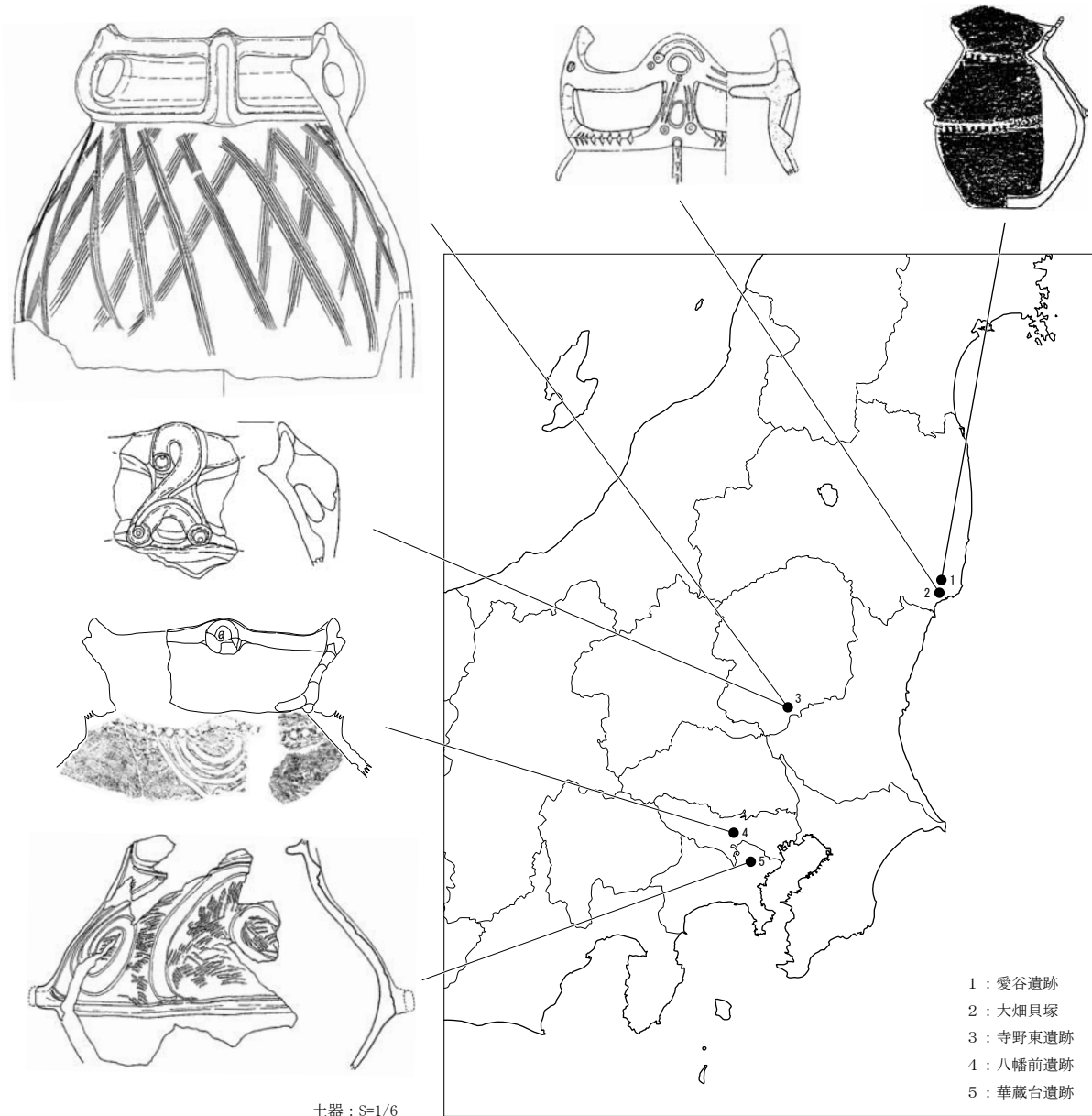
縄文時代後期初頭から前葉にかけては、東日本で壺形土器に伴う土製蓋が盛行する時期であり（伊藤 1990・2008）、頸部内側の突出には蓋受けとしての役割が想定される。ただし、頸部内面に突出を持つ壺形土器と土製蓋の確実な共伴事例は現状では知られていない。とは言え、八幡前遺跡から今後土製蓋が出土する可能性は想定しておくべきだろう。

以上のように今回の調査では、八幡前遺跡と他地域との関係を示唆する興味深い成果が得られた。縄文時代後期前葉は、竪穴住居跡が密集するいわゆる「大規模集落」が形成される中期

に比べ、住居跡の検出数が少ないことから社会の衰退期とみられがちであるが、居住痕跡が重複しないのは縄文時代後期社会の移動性の高さを示すもので、一概に衰退とは言えないという意見もある（中山 1994）。いずれにしても、今回のような小さな調査成果を地道に積み上げていくことが、八幡前遺跡ひいては縄文時代後期社会の実像を把握していくために重要な作業と言えよう。



第1図 伽藍地西辺区画溝 (SD23 溝) 北側部分の既往調査



土器実測図は、馬目順一「南東北—福島県いわき市愛谷遺跡出土品—」『シンポジウム堀之内式土器の記録』、いわき市教育委員会 1975『大畑貝塚調査報告』、横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 2008『華蔵台遺跡』、栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997『寺野東遺跡Ⅴ』、とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2001『寺野東遺跡Ⅲ』より転載。類例は伊藤正人氏ご教示による。

第2図 頸部内側が突出する壺形土器の分布

参考文献

伊藤正人 1990「土製蓋小考—縄文時代中～後期の関東地方を中心に—」『考古学研究』36(4)
 伊藤正人 2008「縄文時代の土製蓋(追考)」『古代学研究』180
 中山真治 1994「多摩川流域における縄文時代後期前葉集落—多摩地域を中心とした堀之内期の集落について—」『東京考古』12
 吉田 格 1951「武蔵国分寺町八幡前遺跡概報」『武蔵野』32(2)

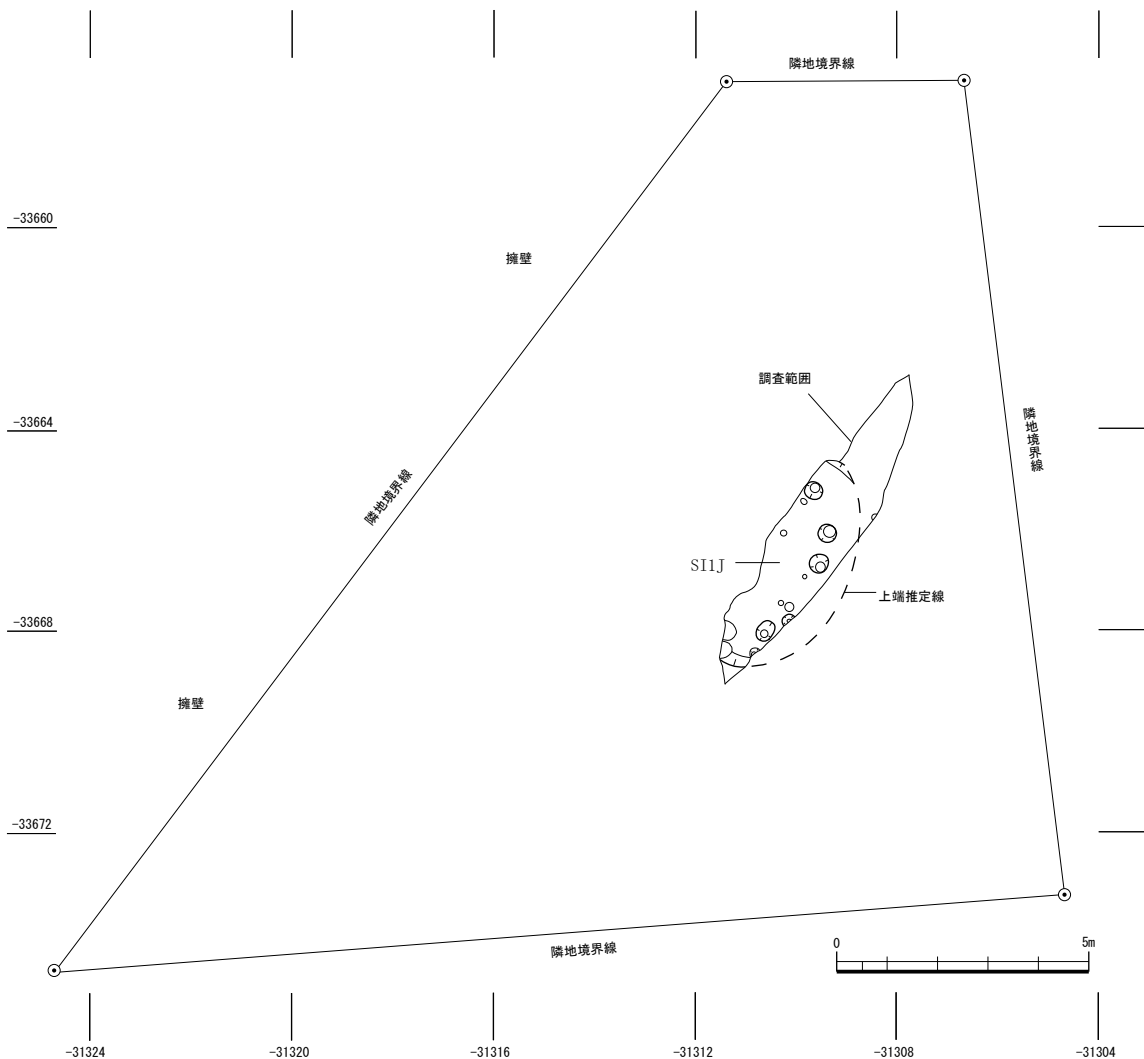
付編 平成7年度～14年度に行った発掘調査

A. 殿ヶ谷戸遺跡第2次調査

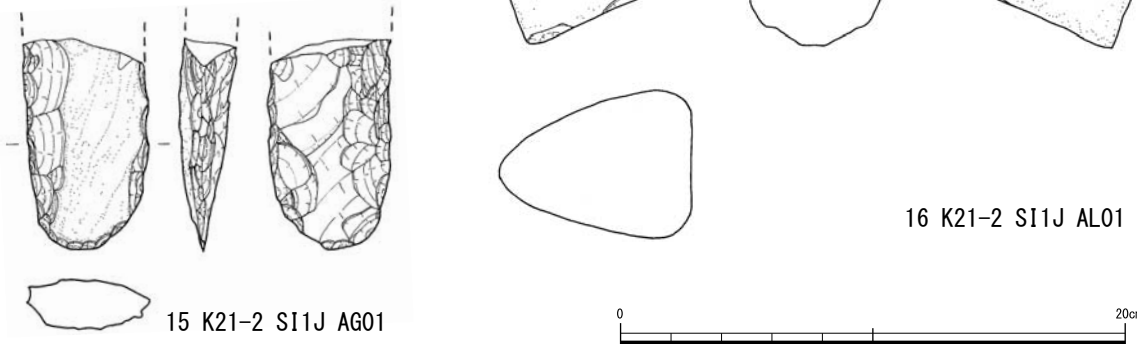
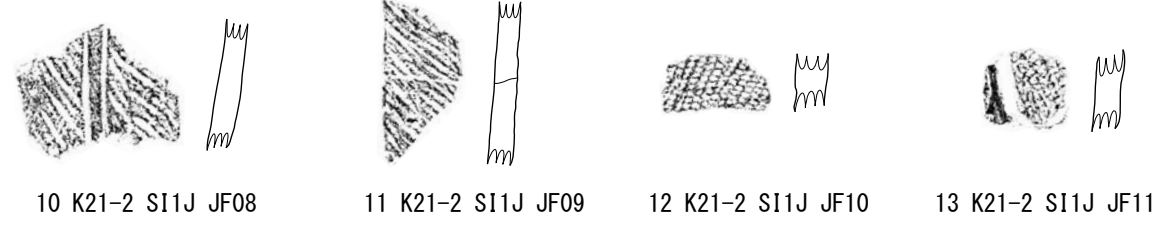
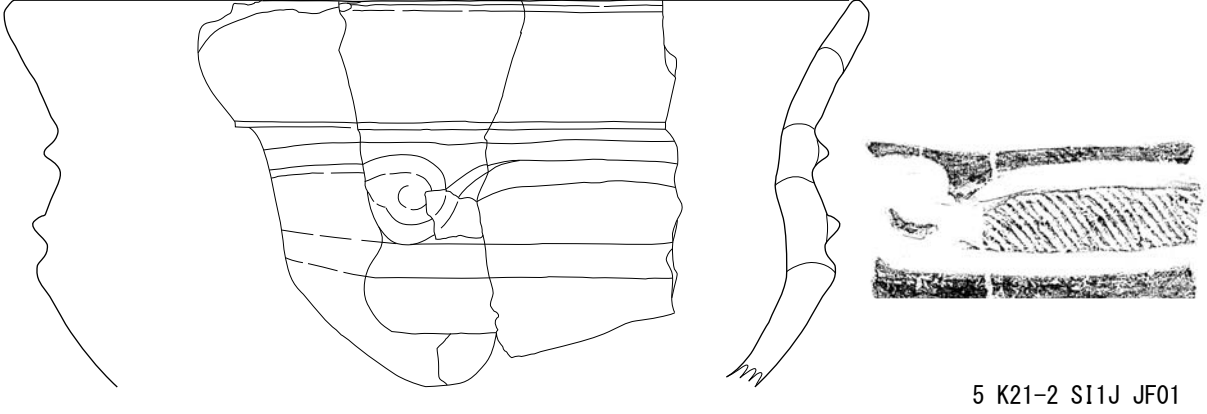
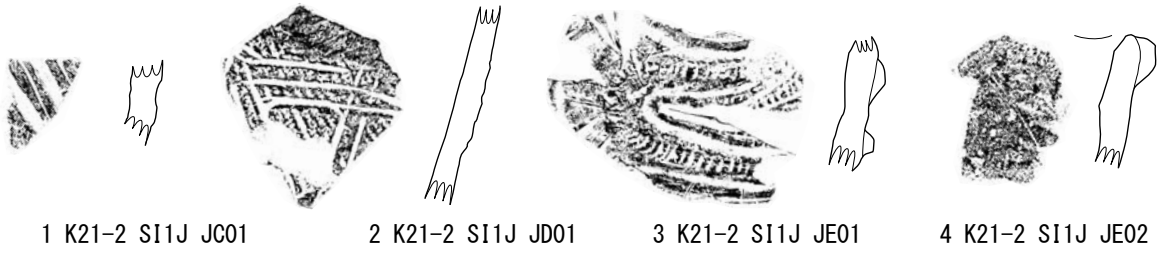
所在地	国分寺市南町2-10-2		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	平成7年4月17日～19日(3日間)		
調査面積	8.00 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SI1J 住居跡		
調査担当	上村昌男		

調査の概要

調査区は殿ヶ谷戸遺跡の縁辺部に立地し、北東側は国分寺街道に向けて急傾斜する。SI1J 竪穴住居は3分の2が削平されており、炉は検出されなかった。確認面からの深さは40cmを測る。覆土から加曾利E式期第V段階の土器が出土した。



第2次調査区全体図



第2次調査出土遺物 (1)



JC01



JD01



JE01



JE02



JF01



JF02



JF03



JF04



JF07



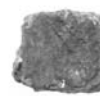
JF08



JF09



JF10



JF11



JF13



AG01

第2次調査出土遺物（2）

付編 平成7年度～14年度に実施した発掘調査

第2次調査 土器一覧

遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JC01	深鉢	SI1J 覆土	— (2.3) —	—	太い沈線と細い沈線を斜位に交互に施す。	赤褐色。硬質。胎土は砂粒を多く含む。田戸下層式。
2 JD01	深鉢	SI1J 覆土	— (7.8) —	—	RLの縄文施文後に平行沈線を施す。	明褐色。やや硬質。胎土は緻密。諸磯B式。
3 JE01	深鉢	SI1J 覆土	— (5.3) —	胴部に貼付け隆帯。	刻み目をもつ隆帯で楕円区画。沈線、キョウピラ文を施文する。	暗褐色。やや硬質。白色砂粒を多く混入。勝坂式。
4 JE02	深鉢	SI1J 覆土	— (5.3) —	四単位の波状口縁の頂部に粘土を貼り付ける。	外面は無文。内面に丁寧なヨコナデ。	暗黄褐色。やや硬質。胎土は粗く、砂粒を多く含む。勝坂式。
5 JF01	深鉢	SI1J 覆土	((33.0) (15.2) —	頸部は「く」の字状に屈曲し、胴部に明瞭な稜線をもつ。	胴部上半に隆帯と太い沈線による渦巻文と楕円区画を施し、区画内にLRの縄文を施文する。内面は丁寧な磨き。	赤褐色。硬質。白色粒子を多く混入。加曾利E3式。
6 JF02	深鉢	SI1J 覆土	— (5.0) —	緩やかに内湾する口縁部。	口縁部下に横走する太い沈線を1条巡らし、沈線の上下にLRの縄文を施文する。	赤褐色。やや硬質。胎土は粗く砂粒、小石を多く含む。加曾利E3式。
7 JF03	深鉢	SI1J 覆土	— (5.5) —	屈曲する胴部。	隆帯と沈線による区画内にLRの縄文を施文する。内面は丁寧な磨き。	赤褐色。硬質。白色粒子を多く混入。加曾利E3式。5と同一個体か。
8 JF04	深鉢	SI1J 覆土	— (4.9) —	—	隆帯による渦巻文と楕円区画を施す。内面は丁寧なミガキ。	赤褐色。硬質。胎土は緻密で砂粒を少量含む。加曾利E3式。
9 JF07	深鉢	SI1J 覆土	— (4.9) —	—	隆帯と沈線で楕円区画を施し、区画内に縦位の沈線を施文する。内面は丁寧な磨き。	淡褐色。やや硬質。胎土は粗く、白色砂粒を多く含む。加曾利E3式。
10 JF08	深鉢	SI1J 覆土	— (5.2) —	—	2条の縦位の平行沈線の左右にRLの縄文を施文する。	暗褐色。硬質。胎土は粗く小石を少量含む。加曾利E3式。
11 JF09	深鉢	SI1J 覆土	— (6.4) —	—	RLの縄文を施文する。内面は丁寧な磨き。	暗褐色。やや硬質。胎土は粗く砂粒を少量含む。加曾利E3式。
12 JF10	深鉢	SI1J 覆土	— (2.3) —	—	LRの縄文を施文する。	淡褐色。やや硬質。胎土は緻密。加曾利E3式。
13 JF11	深鉢	SI1J 覆土	— (3.3) —	—	RLの縄文を施文後、沈線によって磨り消す。	赤褐色。やや硬質。胎土は粗く白色砂粒と小石を多く含む。加曾利E3式。
14 JF13	深鉢	SI1J 覆土	— (5.7) 8.2	—	内外面とも丁寧な磨き。	黄褐色。胎土は砂粒を多く含む。加曾利E3式。

第2次調査 石器一覧

遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
15 AG01	打製石斧	SI1J 覆土	(8.2)	4.9	2.3	114.6	基部欠損	ホルンフェルス	裏面に主剥離面を残す片面調整。
16 AL01	磨石	SI1J 覆土	(8.8)	7.5	5.8	630.0	1/2	花崗岩	磨り面の磨滅が顕著。



調査区全景（南から）



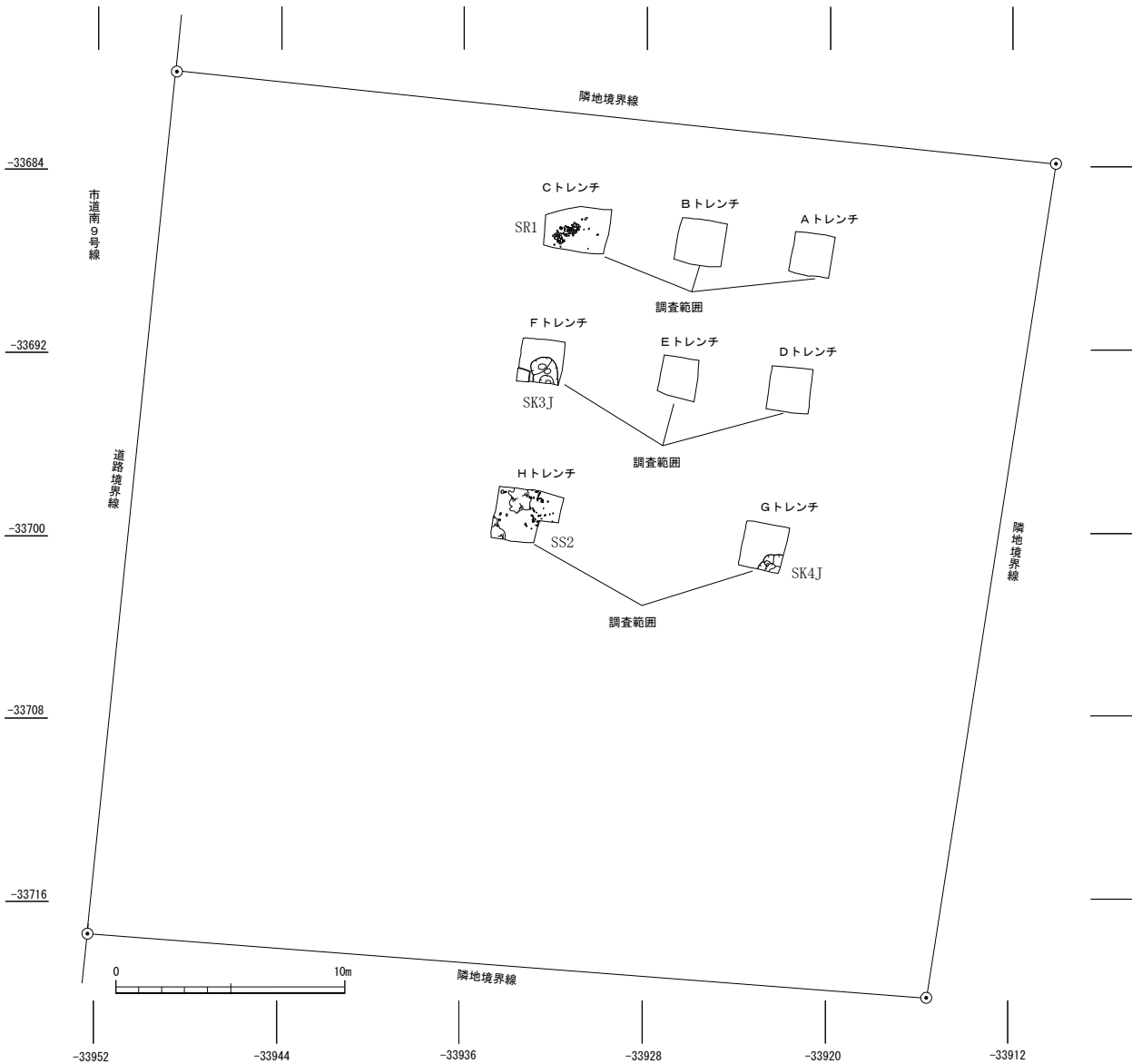
SI1J完掘状況（北から）

B. 東京経済大学構内遺跡第2次調査

所在地	国分寺市南町1-117-9		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	平成7年10月23日 ～11月2日(9日間)		
調査面積	35.2 m ²	遺物箱数	2箱
検出遺構	縄文時代 SS2 集石, SK3J 土坑, SK4J 土坑 旧石器時代 SR1 礫群		
調査担当	上村昌男		

調査の概要

調査区は国分寺崖線に南面する東京経済大学構内遺跡の南西側に立地する。HトレンチでⅢb層中から検出されたSS2集石の範囲は1.6m×1.4m、厚さ0.3mで、掘り込みは確認されなかった。時期を特定できる遺物も出土していない。旧石器時代の調査ではCトレンチのV層中からSR1礫群が検出された。1.8m×0.8m、厚さ0.2mの範囲に被熱した礫が集中している。



第2次調査区全体図



SR1 検出状況（西から）



SS2 検出状況（北から）

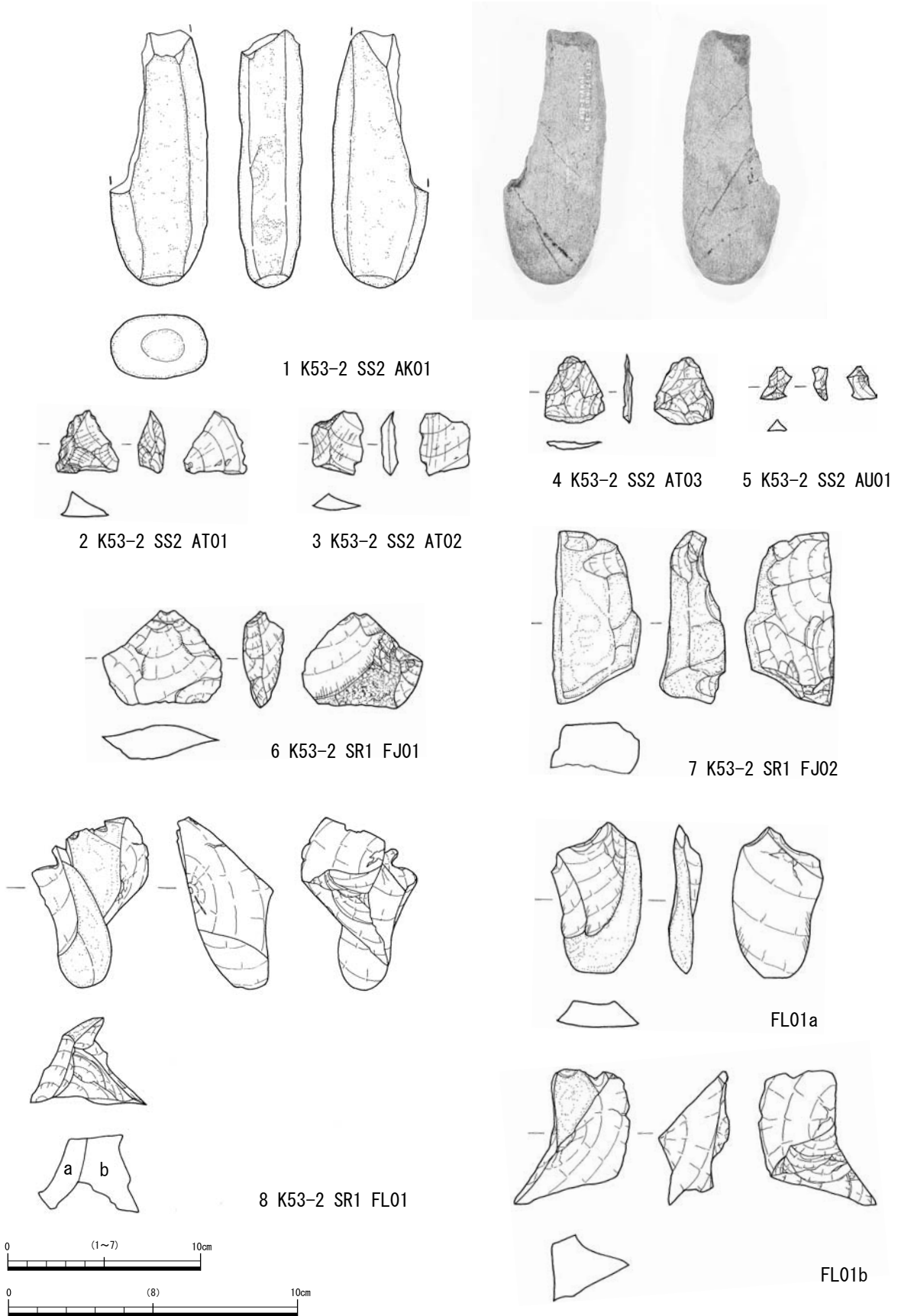


調査区全景（南西から）



Eトレンチ土層断面（南から）

第2次調査 石器一覧									
遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
1 AK01	叩き石	SS2	(13.2)	4.9	3.2	310.0	2/3	砂岩	棒状。片側縁に敲打痕をもつ。
2 AT01	剥片	SS2	3.2	3.2	1.3	8.9	完形	黒曜石	不定形の剥片の側縁に粗い調整を施す。
3 AT02	剥片	SS2	3.3	2.6	0.8	5.3	1/2	黒曜石	縦長剥片の端部に微調整を施す。
4 AT03	剥片	SS2	3.4	3.1	0.5	4.5	完形	ホルンフェルス	不定形の剥片。調整痕は認められない。
5 AU01	破片	SS2	1.7	1.6	0.7	0.8	—	黒曜石	—
6 FJ01	石核	SR1	9.0	4.5	2.7	145.0	完形	チャート	長方形の礫の片面に不定方向の剥離を施す。
7 FJ02	石核	SR1	4.9	6.2	1.8	47.5	完形	頁岩	表面に自然面、裏面に主剥離面を残す。
8 FL01	剥片	SR1	6.0	4.0	3.3	39.4	—	チャート	2点が接合。



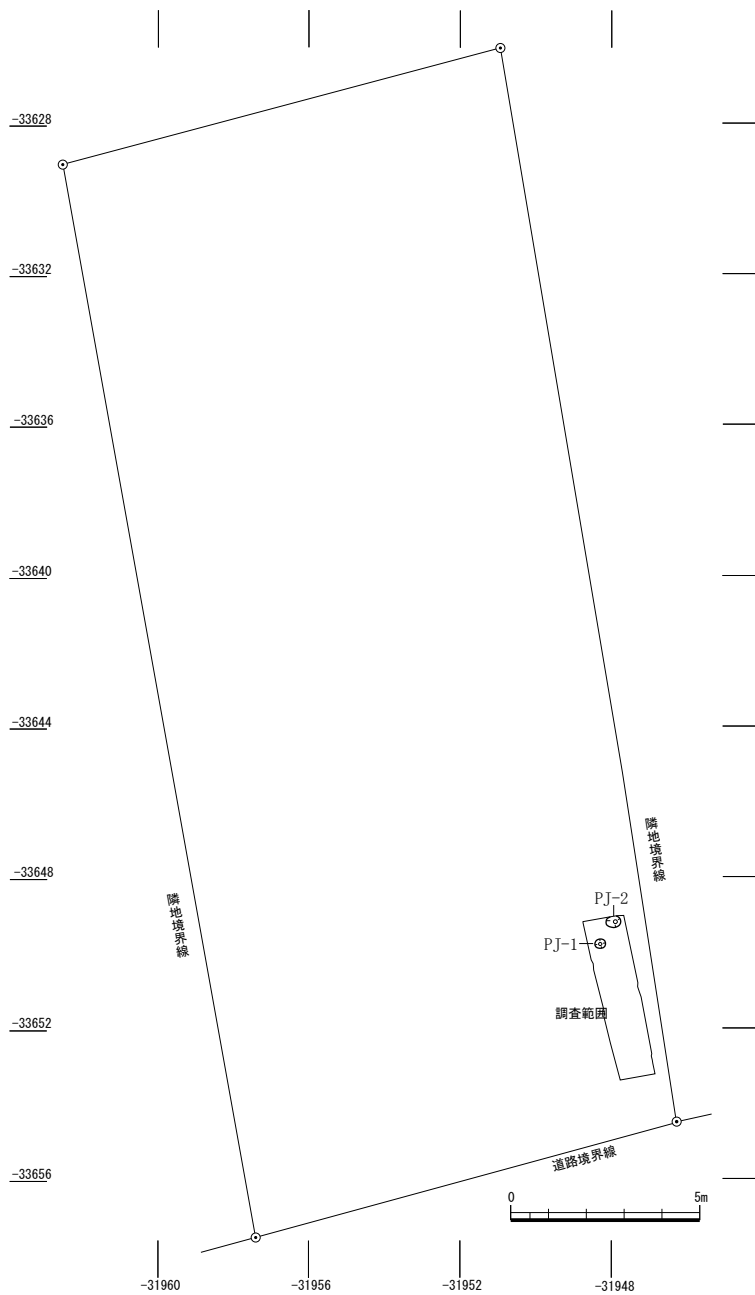
第2次調査出土遺物

C. 花沢西遺跡第9次調査

所在地	国分寺市南町3丁目2081-27		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	平成8年4月8日～4月18日(3日間)		
調査面積	5.40 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	PJ-1 小穴 PJ-2 小穴		
調査担当	上村昌男		

調査の概要

調査区は花沢西遺跡のほぼ中央に立地する。縄文時代の小穴2基を検出した。



調査区全景 (南から)

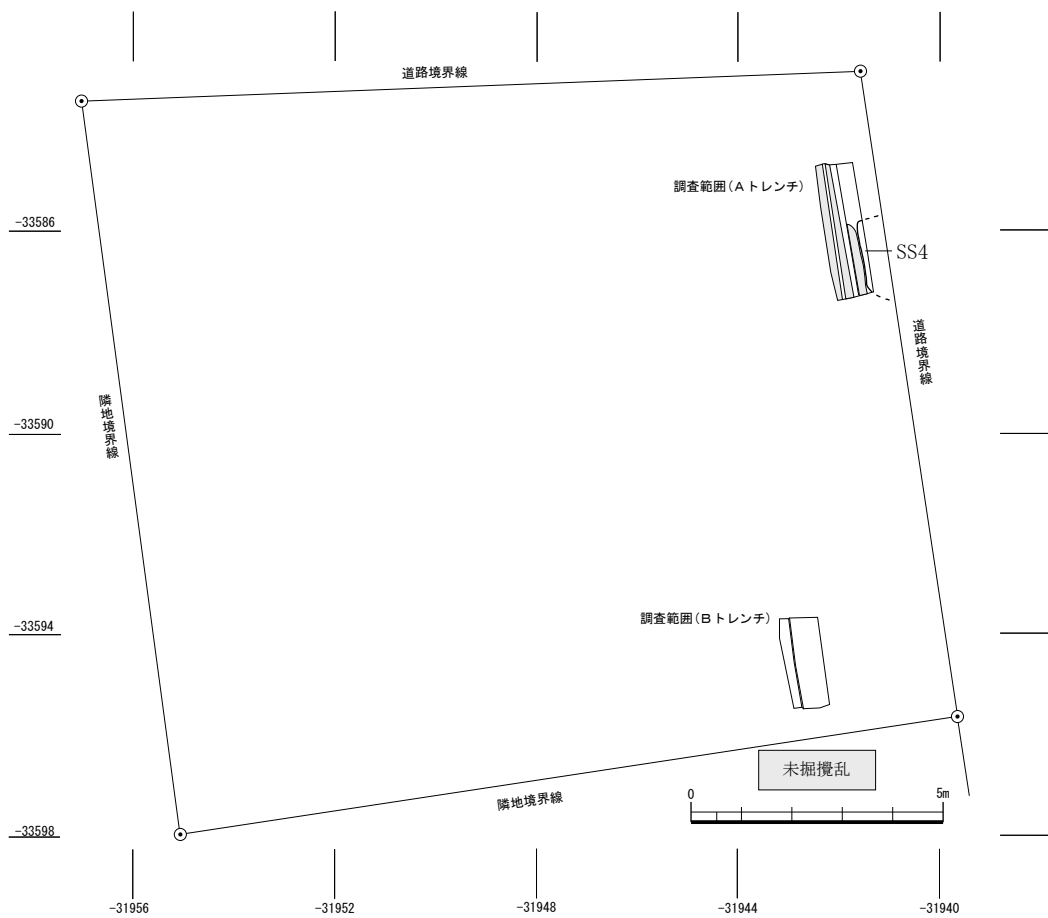
第9次調査区全体図

D. 花沢西遺跡第11次調査

所在地	国分寺市南町3丁目2802-15		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	平成10年7月6日 ～7月10日（5日間）		
調査面積	4.0 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SS4 集石		
調査担当	上村昌男		

調査の概要

調査区は第9次調査区の約60m北に立地する。SS4集石は当調査区においては焼礫が分布するのみであったが、隣接地の調査で東半分が検出されており、直径2mで深さ1mの掘り込みがあり、底面付近に炭化物が多量に含まれることが判明している（花沢西遺跡第6次調査）。



第11次調査区全体図



Bトレンチ全景（東から）



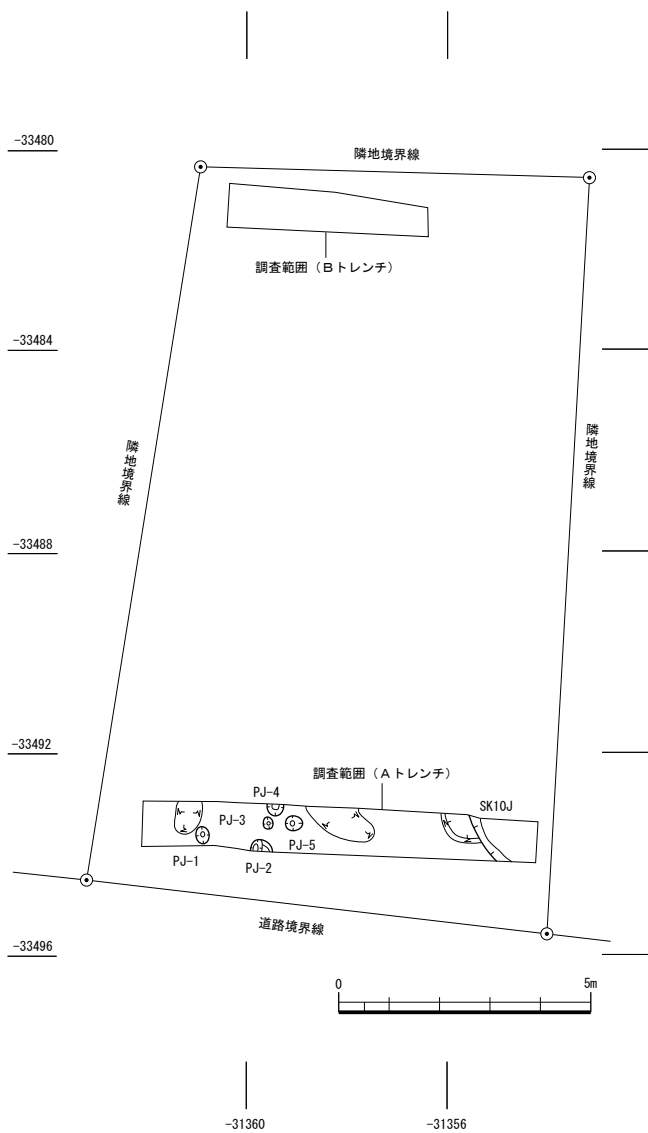
SS4 集石検出状況（西から）

E. 本町（国分寺村石器時代）遺跡第11次調査

所在地	国分寺市本町2-324-119		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	平成13年8月10日～8月27日(7日間)		
調査面積	10.02 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SK10J 土坑, PJ-1～PJ-5 小穴		
調査担当	上村昌男		

調査の概要

調査区は本町遺跡のほぼ中心に立地する。縄文時代の土坑1基，小穴5基を検出した。



第11次調査区全体図



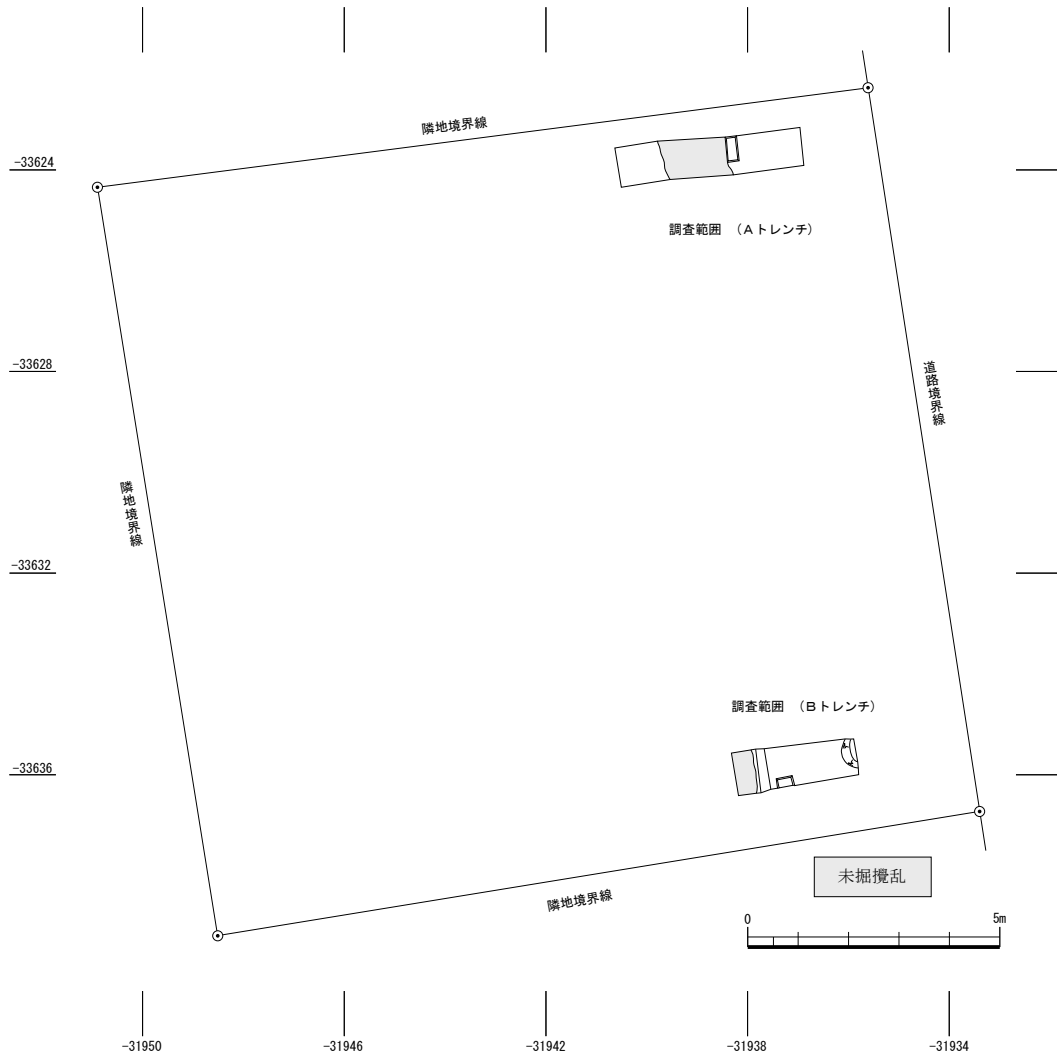
Aトレンチ全景（西から）

F. 花沢西遺跡第14次調査

所在地	国分寺市南町3丁目29-19		
調査原因	個人宅造に伴う本発掘調査		
期間	平成14年6月19日～6月24日(4日間)		
調査面積	6.00 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
調査担当	上村昌男		

調査の概要

調査区は第11次調査区約40m南に立地する。遺構は検出されず、遺物は勝坂式の縄文土器片が1点出土した。



第14次調査区全体図

平成 22 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報

発行日 平成 24 (2012) 年 3 月 31 日
編著者 国分寺市遺跡調査団
© (団長 坂詰 秀一)
発行 国分寺市教育委員会
(ふるさと文化財課)
〒 185-0023 国分寺市西元町 1-13-10
(武蔵国分寺跡資料館内)
TEL 042-300-0073
印刷 望洋印刷株式会社

令和 4 年 (2022) 3 月 2 日 デジタル版作成

